

724-91

C2
1113
69-02

明治
廿一年

京都府府令達要約

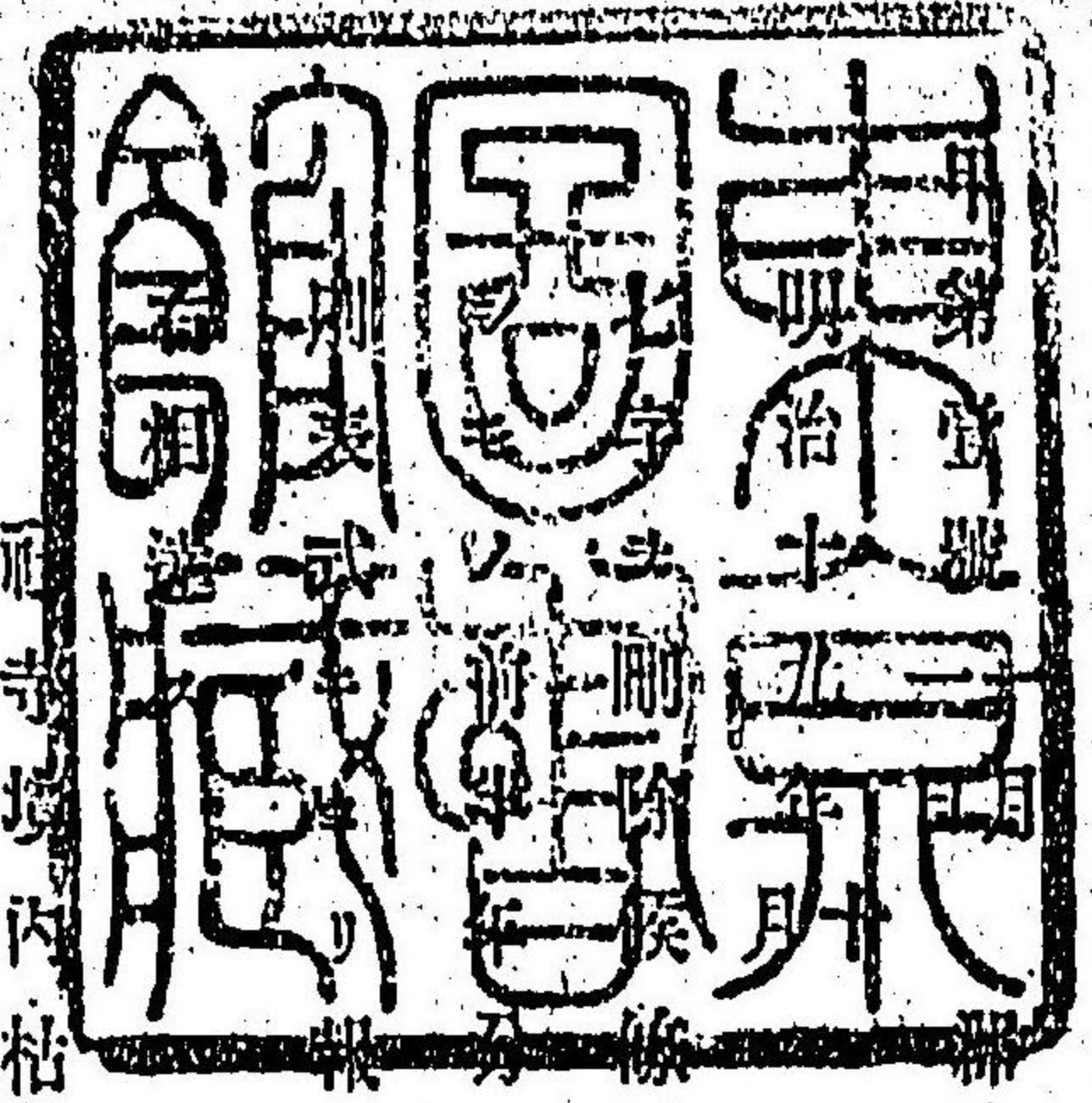
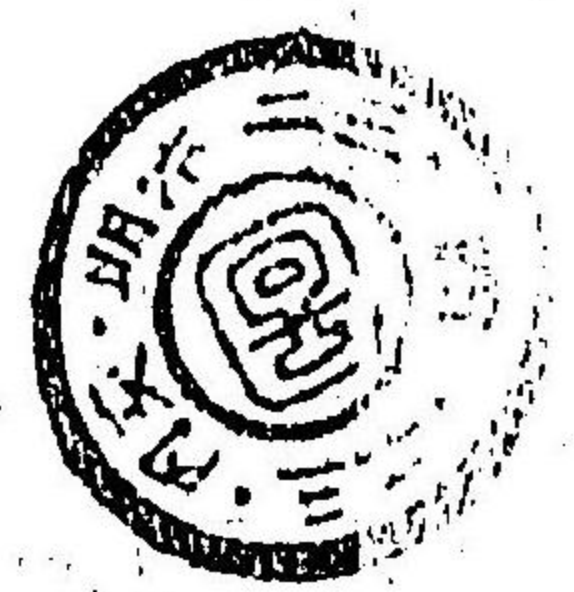
第九編

下卷

京都府庶務課編纂

No. 2894

○明治二十二年治京都府府令達要約



區町村
本府甲第廿三號達中並ニ以下割註共二十
府社以下並寺院境内枯損木竹伐採處分ニ
ハ七月十日後半分ハ翌年一月十日マテニ
告スヘシ

府社以下ノ部

從明治何年何月
至全 年何月

郡區町村名	社名	種類	員數	所	分	月	日
-------	----	----	----	---	---	---	---

廿二年

計	、 、 、 、	何郡何村	何	々	木	何	本	何	月	何	日	
		何區何町	、 、 、 、	竹	何	本	何	月	何	日		
寺院ノ部												
計	、 、 、 、	郡區何村	何	、 、 、 、	寺	木	何	本	何	月	何	日
		計	何	拾	東本	東本	本	何	月	何	日	
境外佛堂ノ部												
計	、 、 、 、	何郡何村	何	々	木	何	本	何	月	何	日	
		何區何町	、 、 、 、	竹	何	本	何	月	何	日		
計												
何	百	東本	何	本	何	月	何	日				

總計	何百東本
----	------

凡例

枝葉及ヒ小竹等東敷ヲ掲クルモノハ何尺繩メト附記スル

甲第貳號 十一月 郡區町村 本年甲第拾壹號ヲ以テ取消

甲第參號 十一月 郡區 陸軍召集條例第百六十五條ニ據リ金庫國庫金出納本支所

ニ送付ノ召集旅費概算表欄外五月十日調ハ第一次十一月

十日調ハ第二次ノ三字朱書ス可シ

但明治二十年十一月十日調ニシテ既ニ送付ノ分ハ追報

スル

廿一年

右相違ス

甲第四號 十九日 郡區

從來官報ニ登載アル各省之訓令違等ニシテ郡區役所ニ於テ取扱フ事項其明文アルモノト雖モ其郡度相違候所自今別ニ違ニ不及候條官報ニ依リ處理スヘシ但シ殊ニ違ヲ爲スモノハ此限ニアラス

右相違ス

甲第五號 十九日 郡區町村

明治十四年十月當廳乙第百五號及ヒ同年十二月同第百四拾三號達ヲ廢止ス (士族異動届ノ件)

右相違ス

甲第六號 廿五日 區町

區部地方税賦課徵收事務取扱順序別冊之通相定ム
右相違ス

區部地方税賦課徵收事務取扱順序

第一章 總則

第一條 區部地方税賦課徵收事務ハ下條ノ順序ニ遵ヒ取扱フ可シ

但税金收納順序ハ別段ノ達ニヨル可シ

第二條 各種税目中其業体ニヨリ編入税目ノ區分相立難キモノ其他取扱上疑似ニ涉ル廉ハ其詳細ヲ具シ必ス指揮ヲ乞フ可シ

第三條 營業標牌ハ鑑札下付シタル後十五日以内戸長役所ノ既印ヲ捺シ揭示セシメ部内揭示終ラハ其旨區長ニ

等ニ據ルト雖非常ニ注意シテ其當不當ヲ調査シ若不相當ト認ムルモノアルハ雜則第七條ノ手續ヲ爲シ必ズ正當ニ歸セシムヘシ

但雜則第七條第二項第三項ニ依リ帳簿又ハ營業物件等ニ就キ審査スル場合ニ於テハ戶長ノ立會ヲ要スヘシ

第七條 各種營業ノ上リ金高若クハ坪數等ハ左ノ業目ノ

- 下ニ掲グル各種類ヲ合算シテ其等級ヲ定ム可シ
- 一 商業 賣上金口錢手數料貸料貸付金ノ額共
- 一 工業 工料製作料自製品賣上金ノ額共
- 一 待合茶屋 席料其他飲食料ノ額共
- 一 芝居茶屋 棧敷料其他飲食料ノ額共

報シ區長ハ其區内全ク終ルヲ待テ速カニ收稅長ニ報告ス可シ

第四條 區長ハ時々主任ノモノヲ派遣シ戶長ニ於テ税金徵收其他取扱上ノ當否並脱稅者ノ有無ヲ監査セシム可シ此場合ニ於テハ營業ノ景況賦稅ノ當否等詳細具申ス可シ

第五條 當廳ヨリ臨時主務官ヲ派遣シ營業者ノ等級及税金徵收脱稅者ノ有無其他取扱上ノ當否ヲ監査セシムルコトアル可キニ付豫テ諸簿冊類錯亂セサル様整理シ置ク可シ

第二章 等級査定

第六條 凡各業ノ等級ヲ定ムルハ營業人申立ノ上リ金高

一 湯屋

湯壺ノ内法坪數ヲ量リ二壺以上ヲ構ユルモ
ノハ各壺ノ坪數共

一人寄席

土間二階三階ノ別ナク總テ見物用ニ供スル
場所ノ坪數

右ノ外上リ高ヲ以テ算スルモノハ全ク收受スル金額
ニヨルヘシ

第八條 課目課額第十三項第十四項ニヨリ各種營業ノ等
級ヲ定ムルハ戸長ニ於テ豫テ該町内營業者ノ住所姓名
業名并ニ前年度ノ等級ヲ定メタル上リ金高ヲ記載シタ
ル帳簿ヲ製シ置雜則第一條ニヨリ各自ヨリ差出ス上リ
金高其他ノ調査經由ノ際其當否ヲ點檢シ相當ト認定セ
ハ各人名ノ頭ニ其相當等級ヲ朱記シ區長ニ出ス可シ

但上リ金高不相當ト認め雜則第七條ノ手續ヲナシタ
ルモノアルトハ其人名ノ左側ニ其事由ヲ朱記ス可シ

第九條 區長ハ第八條ノ帳簿ヲ受付ケ前年度等級ヲ定メ
タル上リ金高等ニ照シ尙其金額及等級ノ當否ヲ審査シ
相當ト認定セハ速ニ根帳調製鑑札下付ノ手續ヲナシ且
各自ノ等級ヲ戸長ニ通シ税金徴收ノ備ヲナサシム可シ
但上リ金高不相當ト認め雜則第七條ノ手續ヲナシタ
ルトキハ前條但書同様記載シ置當廳主務官派出ノ節
點檢ノ便ニ供スヘシ

第三章

根帳編成

第十條 各種營業中等級アルモノハ第九條ノ調査終リ其
等級ヲキモノハ該調査ニ拘ハラス區長戸長ニ於テ第一

號式ノ根帳ヲ調製スヘシ

第十一條 區長戶長ハ第十條根帳ノ外別ニ第二號式ノ帳簿ヲ製シ毎月開業廢業等異動ノ員數ヲ記入シ每期税金ノ徵收及第二十一條第二十二條ニ掲クル増減表調製ノ便ニ供スヘシ

第四章 鑑札授受

第十二條 區長ハ第十條ノ手續終ラハ鑑札ハ第三號式ノ如ク根帳ト割印ノ上戶長ヲ經テ本人ニ下付スヘシ但賣藥受賣及行商人ヘハ別ニ鑑札ヲ下付スルニ及ハス

第十三條 課目課額第四項ニ相當スルモノハ各別ニ鑑札ヲ下付シ同項但書及第五項ニ相當スルモノハ鑑札

一枚ヲ付與ス可シ

第十四條 新規開業者ヨリ營業鑑札申出ノ節戶長ニ於テハ其見積金又ハ坪數等ヲ點檢シ相當ト認ムルルルハ該書面ヲ區長ニ出スヘシ區長ハ尙其審査ヲ遂ケ相當ト認定セハ直ニ第十二條第十三條ニ照シ鑑札ヲ製シ戶長ヲ經テ本人ニ下付シ此際雜則第二十一條ニ據リ直ニ納稅セシムヘシ

但上リ金見積高不相當ト認ムルルルハ其營業ノ目的方
法仕込金高等詳細審問シ相當ニ歸セシムヘシ

第十五條 雜則第十一條ニヨリ代換轉居等ノ爲メ鑑札訂正ヲ乞フルハ可成其鑑札ヲ訂正シ主任認印ノ上下付スヘシ又ハ鑑札遺失等ニ付再渡ヲ請フモノアルルルハ同條

ニヨリ之ヲ付與シ其月稅ニ係ルモノハ遺失ノ月日場所等ヲ詳記シ及其寫ヲ添ヘ速ニ當廳ヘ具申スヘシ

但遺失ノ鑑札發見ノ節ハ其旨届出ヘシ

第十六條 他府縣下ノ者府下ニ於テ營業ノ爲メ鑑札申出

タルルハ之ヲ下付シテ苦シカラスト雖モ必ス所轄内ニ

一家ヲ爲シタルモノヲ以テ引請人相立サセ之ヲシテ納

稅ニ關スル一切ノ責任ヲ負ハシムヘシ

但他郡區ノ者ト雖モ本條ニ準據スヘシ

第五章 課稅區分

第十七條 人寄席ニ於テ淨瑠璃祭文講釋ノ額ヲ演スルモ

ノ若クハ諸鳥獸諸細工硯眼鏡等ノ額課稅區分ハ十五年

乙第百七號達ニ依ルヘシ

第十八條 寺院ヲ借受ケ或ハ民家等ニ於テ一時淨瑠璃祭

文講釋等ヲ演シ木戸錢棧敷料等ヲ收ムルモノハ興行稅

ヲ課ス可シ

第十九條 地租割戸數割ヲ賦課ス可キ三月一日九月一日

各現在ノ地租戸數ハ區長ニ於テ調査シ其三月十日九月

十日限リ第四號式ノ書面ヲ以テ收稅長ニ申告シ更ニ各

町ノ賦課額ヲ算出シテ戸長ニ達シ稅金ヲ徵收セシム可

シ

但戸數ハ戸長ニ於テ取調其月五日限リ區長ヘ報告ス

ヘシ

第六章 免稅密查

第二十條 課目課額第十一項各業ノ免稅及減稅ハ同上第

十三項乃至第十五項ノ區分ニヨリ計算セシ上リ金高及
 業名ヲ記載シタル本人ノ願書ニ比隣同業者(同業者ナキ
 片ハ異業者
 シカラス)二名以上述署セシメ戸長ニ於テ其金高業名等
 ナ点檢シ尙ホ町内有稅者中最モ細業者トノ權衡ヲ量リ
 免稅(減稅)當否ノ調書ヲ添ヘ區長ニ出シ區長ハ所轄内有稅
 者中最モ細業者ノ者ニ比較密査ヲ遂ケ若クハ實地ニ就キ
 調査シ第五號式ニ準據シ意見ヲ添申シ當廳ニ出スヘシ

第七章

異動申報

第二十一條 開廢業其他異動アル時ハ區長戸長ハ速ニ各
 其根帳ヲ訂正シ區長ハ其月分翌月二日限第六號式ノ增
 減表ヲ以テ收稅長ヘ申報ス可シ若シ増減ナキハ其旨
 報告スヘシ

第二十二條 戸長ハ營業人員等突合ノ爲メ毎月末其月一
 日現在并開廢轉來及翌月越員數ヲ記載シタル増減表ヲ
 製シ區長ニ出スヘシ區長ハ直ニ之ヲ根帳ト照査シ相違
 ナキトキハ其証トシテ認印ノ上速ニ返付スヘシ

④第壹號 (年稅ニ係ルモノハ此例ニ倣ヒ其順序ヲ逐ヒ列記スヘシ)

④商業之部		第何組	
④區役所鑑 札ト割印ス ヘシ 〔何等〕	④(兼) 何業	④(兼) 類毎ニ別記 スヘシ 何商	④上リ金高
		④住 水 住	④何町 某
		④業 水 業	
		④居 水 居	
		④年 水 年	
		④月 水 月	
		④何 水 何	
		④日 水 日	

第貳號

月稅上リ高及船車ノ分ハ各種類ニ應シ適宜簿冊ヲ調製スヘシ

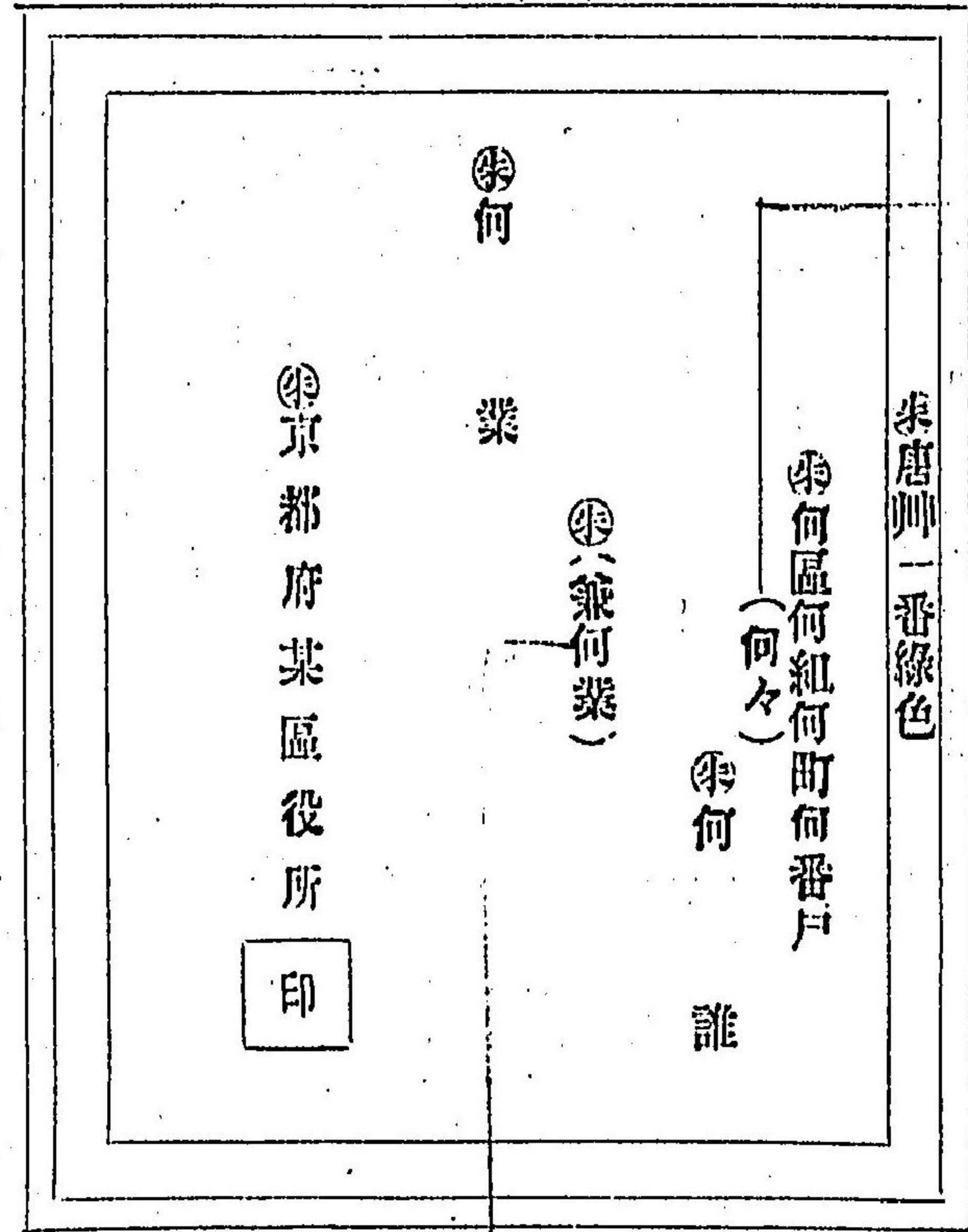
		業 何 業 何 業												
合 小 計	計	三	二	一	十	十	小	九	八	七	六	五	四	月 別
		月	月	月	月	月	計	月	月	月	月	月	月	一 日 現 在
														廢 業
														轉 居
														訂 正 減
														開 業
														訂 正 增
														來 住
														發 見

第三號

用紙西洋紙
或綿入渡

表面

〇五〇三〇〇



職名アルモノハコ、ニ記スヘシ

五 寸

赤唐洲一番綠色

何區何組何町何番戶 (何々)

何

誰

兼何業

業

京都府某區役所

印

課目課額
第四項但
書及第五
項ニ相當
スヘキ業
名ヲ上ニ
掲ケ兼業
ノ分ヲ如
此付記ス

廿一年

十九

第五號

用紙美濃界紙

廿四

細業人地方税免稅(減稅)願出ニ付具申

業名	上高(又見積高)	事	實	住所	姓	名
		本人願書及戸長調書ニ 拘ハラス區長ニ於テ審査 シタル事實ヲ此ニ記ス可 シ				
小計						
合計						

備考

本人ハ何業ヲ兼テ其上リ金高何程ニシテ何等稅ヲ納メ本業ノ免
 (減)稅出願ハ何業ヲ兼テモ上リ金高何程ニシテ是亦免
 (減)稅出願ニ付則チ何業ノ部ニモ本人名ヲ載スノ類ヲ詳記スヘシ

右地方税免稅(減稅)ノ義本人共願書ハ戸長調書相添ヘ差出
 候ニ付事實審査ヲ遂候處前書之通ニシテ課目課額第九項
 ニ相當(不相當)ノ者ト相認メ候條免(減)稅ノ御詮議相成度難
 相成乎)本人共願書并戸長調書等相添此段具申候也

年 月 日

長 官 宛

何區長姓名

印

第六號

本表ハ年度初月ハ一日現在員ヲ列記シ次月ヨリハ其増減アルモノ
 記載スヘシ

明治何年何月分營業雜種稅目各業増減表

年 稅 之 部	
業名	等級
本月一 日現在	廢業
轉居	訂止減
開業	訂正增
來住	翌月越
員數	

廿一年

廿五

第三條 營業標牌ハ鑑札下付シタル後十五日以内戸長役場ノ改印ヲ捺シ揭示セシメ部内揭示終ラハ其旨郡長ニ報シ郡長ハ其郡内全ク終ルヲ待テ速カニ收税長ニ報告ス可シ

第四條 郡長ハ時々主任ノモノヲ派遣シ戸長ニ於テ税金徴收其他取扱上ノ當否並脱税者ノ有無ヲ監査セシム可シ此場合ニ於テハ營業ノ景況賦税ノ當否等詳細具申ス可シ

第五條 當廳ヨリ臨時主務官ヲ派遣シ營業者ノ等級税金徴收其他取扱上ノ當否脱税者ノ有無ヲ監査セシムルトアル可キニ付豫テ諸簿冊錯亂セサル様整理シ置ク可シ

第二章 等級査定

第六條 凡各業ノ等級ヲ定ムルハ營業人申立ノ上リ金高ニ據ルト雖モ常ニ注意シテ其當不當ヲ調査シ若シ不相當ト認ムルモノアルトハ雜則第七條ノ手續ヲ爲シ必ス正當ニ歸セシムヘシ
但雜則第七條第二項第三項ニ依リ帳簿又ハ營業物件等ニ就キ審査スル場合ニ於テハ戸長ノ立會ヲ要スヘシ

第七條 各種營業ノ上リ金高若シクハ坪數等ハ左ノ業目ノ下ニ掲クル各種類ヲ合算シテ其等級ヲ定ム可シ
但課目課額第一項ニ相當スルモノハ各其方法ニヨリ計算スルモノトス

- 一 商業 賣上金口錢手數料貸料貸付金ノ類共
 - 一 工業 工料製作料自製品賣上金ノ類共
 - 一 待合茶屋 席料其他飲食料ノ類共
 - 一 芝居茶屋 機敷料其他飲食料ノ類共
 - 一 湯屋 湯蓋ノ内法坪敷ヲ量リ二壺以上ヲ構ユルモノハ各壺ノ坪敷共
 - 一 雇人受宿 口入手數料其他一切ノ上リ金
- 右ノ外上リ高ヲ以テ算スルモノハ全ク收受スル金額ニヨルヘシ

第八條 課目課額第九項第十項ニヨリ各種營業ノ等級ヲ定ムルハ戸長ニ於テ豫テ該町村内營業者ノ住所姓名業名并ニ前年度ノ等級ヲ定メタル上リ金高ヲ記載シタル

帳簿ヲ製シ置キ雜則第一條ニヨリ各自ヨリ差出ス上リ金高其他ノ調書經由ノ際其當否ヲ點檢シ相當ト認定セハ各人名ノ頭ニ其相當等級ヲ朱記シ郡長ニ出ス可シ但上リ金高不相當ト認メ雜則第七條ノ手續ヲナシタルモノアルハ其人名ノ左側ニ其事由ヲ朱記ス可シ

第九條 郡長ハ第八條ノ帳簿ヲ受付ケ前年度等級ヲ定メタル上リ金高等ニ照シ尙其金額及等級ノ當否ヲ審査シ相當ト認定セハ述ニ根帳調製鑑札下付ノ手續ヲナシ且各自ノ等級ヲ戸長ニ通シ税金徴收ノ備ヲナシム可シ但上リ金高不相當ト認メ雜則第七條ノ手續ヲナシタルトキハ前條但書同様記載シ置當廳主務官派出ノ節點檢ノ便ニ供スヘシ

第三章 根帳編成

第十條 各種營業中等級アルモノハ第九條ノ調査終リ其等級ナキモノハ該調査ニ拘ハラヌ郡長戸長ニ於テ第一號式ノ根帳ヲ調製スヘシ

第十一條 郡長戸長ハ第十條根帳ノ外別ニ第二號式ノ帳簿ヲ製シ毎月開業廢業等異動ノ員數ヲ記入シ每期税金ノ徵收及第二十三條第二十四條ニ掲クル増減表調製ノ便ニ供スヘシ

第十二條 徵收所ニ於テハ豫テ第三號式ノ帳簿ヲ製シ置キ雜則第廿二條第廿四條ニヨリ役主ヨリ差出タル證書ノ檢査終テ其本人及保証人ノ住所姓名役ノ等級税金月日等ヲ詳細該簿ニ登録シ而シテ該證書並ニ送狀ト同番

號ヲ付ス可シ

但稅税金ヲ徵收スル郡長及戸長ニ於テモ本文同様簿冊ヲ製シ税金徵收ノ時々記入スヘシ

第四章 鑑札授受

第十三條 郡長ハ第十條ノ手續終テハ鑑札ハ第四號式ノ如ク根帳ト剽印ノ上戸長ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

但賣藥受賣及行商人ハ別ニ鑑札ヲ下付スルニ及ハス

第十四條 課目課額第二項ニ相當スルモノハ各別ニ鑑札ヲ下付シ同條但書及第四項ニ相當スルモノハ鑑札一枚ヲ付與ス可シ

第十五條 新規開業者ヨリ營業鑑札申出ノ節戸長ニ於テ

ハ其見積金高等ヲ點檢シ相當ト認ムルルハ該書面ヲ郡長ニ出スヘシ郡長ハ尙其審査ヲ遂ク相當ト認定セハ直ニ第十三條第十四條ニ照シ鑑札ヲ製シ戶長ヲ經テ本人ニ下付シ此際雜則第二十一條ニ據リ直ニ納稅セシムヘシ

但上リ金見積高不相當ト認ムルルハ其營業ノ目的方
法仕込金高等詳細審問シ相當ニ歸セシムヘシ

第十六條 雜則第十一條ニヨリ代換轉居等ノ爲メ鑑札訂正ヲ乞フルハ可成其鑑札ヲ訂正シ主任認印ノ上下付スヘシ又ハ鑑札遺失ニ付再渡ヲ請フモノアルルハ同條ニヨリ之ヲ付與シ其月稅ニ係ルモノハ遺失ノ月日場所等ヲ詳記シ及其寫ヲ添ヘ速ニ當廳ニ具申スヘシ

但遺失ノ鑑札發見ノ節ハ其旨届出ヘシ

第十七條 他府縣下ノ者ニ於テ營業ノ爲メ鑑札申出タルルハ之ヲ下付シテ苦シカラスト雖モ必ス所轄内ニ一家ヲ爲シタルモノヲ以テ引請人相立サセ之ヲシテ納稅ニ關スル一切ノ責任ヲ負ハシムヘシ
但他郡區ノ者ト雖モ本條ニ準據スヘシ

第五章 課稅區分

第十八條 演劇興行及ヒ遊覽所ニシテ中木戸ヲ設クルモノハ表木戸錢ト合算シテ課稅スヘシ
第十九條 人寄席ニ於テ淨瑠璃祭文講釋ノ類ヲ演スルモノ若シハ諸鳥獸諸細工視眼鏡等ノ類課稅區分ハ十五年乙第百七號達ニ依ルヘシ

第二十條 寺院ヲ借受ク或ハ民家等ニ於テ一時淨瑠璃祭
文講釋等ヲ演シ木戸錢棧敷料等ヲ收ムルモノハ興行稅
ヲ課ス可シ

第二十一條 地租割戸數割ヲ賦課ス可キ三月一日九月一
日現在ノ地租戸數ハ郡長ニ於テ調査シ三月十日九月十
日限第五號式ノ書面ヲ以テ收稅長ニ報告シ更ニ各町ノ
賦課額ヲ算出シテ戸長ニ達シ稅金ヲ徵收セシム可シ
但戸數ハ戸長ニ於テ取調其月五日限リ郡長ニ報告ス
ヘシ

第六章

免稅審查

第二十二條 課目課額第七項各業ノ免稅及減稅ハ同上第
九項乃至第十一項ノ區分ニヨリ計算セシ上リ金高坪數

及業名(其品)ヲ記載シタル本人ノ願書ニ比隣同業者(同業
者)キルハ異業者ト二名以上連署セシメ戸長ニ於テ其金
雖モ苦シカラスト高業名坪數等ヲ点檢シ尙ホ町村内有稅者中最モ細業者
トノ權衡ヲ量リ免稅(減稅)當否ノ調査ヲ添ヘ郡長ニ出シ郡
長ハ所轄内有稅者中最モ細業ノ者ニ比較審查ヲ遂ケ若
シクハ實地ニ就キ調査シ第六號式ニヨリ意見ヲ添申シ
當廳ニ出スヘシ

第七章

異動申報

第二十三條 開廢業其他異動アル時ハ郡長戸長ハ速ニ各
根帳ヲ訂正シ郡長ハ其月分翌月二日限リ第七號式ノ增
減表ヲ以テ收稅長ニ申報ス可シ増減ナキルハ其旨報告
スヘシ

廿一年

裏面

其年度ノ証印ナキモノハ無効トス	年度	年度	年度	年度	年度	年度	改正年度
	年月日第	年月日第	年月日第	年月日第	年月日第	年月日第	下付
	号	号	号	号	号	号	改正年度
							月税金

四十五

裏面

其年度ノ証印ナキモノハ無効トス	年度	年度	年度	年度	年度	何年度	改正年度
	年月日第	年月日第	年月日第	年月日第	年月日第	年月日第	下付
	号	号	号	号	号	号	改正年度
	等	等	等	等	等	等	等級
							年税金

根帳割印

朱唐印墨色

四十四

裏面

第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	下付年月日 番 号	許可期限 日 税
第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	第 年 月 日 号	下付年月日 番 号	許可期限 日 税

第五號

用紙美濃紙

明治何年 九月一日 現在地租戸數調

町村名	地	租	戸	數
合 計				

○三月一日九月一日ニ於テ己ニ起返リ地等ノ地價未定ノ分アルトキハ此合計ノ欄

外ニ其事由ヲ詳記シ追テ徴收スルモノアルヲ明ニスヘシ

○被救助人アルハ合計ノ欄外ニ外何戸被救助人ト朱記スヘシ

書面之通相違無之候也

年號月日

何郡長姓名

印

廿一年

收稅長宛

本人ニ下付スヘシ

第四條 戸長ハ收入セシ金員ヲ一旬毎ニ爲換方へ預ケ入
レ第二號書式ニ依リ上納証書ヲ作り預リ切符ヲ添へ三
日以内ニ郡區長へ上納スヘシ

第五條 郡區長ハ前條ノ上納証書預リ切符ヲ領收シタル
ルハ第三號式ノ領收証書ヲ作り收入簿ト割印ノ上戸長
ニ付與スヘシ

第六條 郡區長ハ戸長ヨリ領收ノ金額一旬間取經メ第二
號書式ニ依リ上納証書ヲ作り預リ切符ヲ添へ三日以内
ニ收稅長へ送納スヘシ

第七條 郡區長ハ年度間收入全ク了ラハ第四號式ノ皆濟
帳及第五號式ノ仕譯書ヲ製シ年度后二ヶ月以内收稅長

へ差出スヘシ

第八條 課納還付及更正上納不納處分手續及報告方等ハ
二十年甲第十五號達地方稅收納順序ヲ適用スヘシ

第九條 郡區役所收入簿ハ二十年甲第十六號地方稅記簿
規程第一摺本ニ依リ摘要欄内ニ地租額ヲ記入ス戸長役
場收入元帳ハ十七年乙第二百十七號地方稅記帳手續第
一號式ニ依リ調製スヘシ

第一號式 (用紙美濃野紙以下皆全シ)

明治何年度公貯金 下半年分納額報告

地租金何程

一金何程

外(内)金何程乘不足(乘過)

右ノ通候也

年 月 日

郡區長

姓 名 印

收 稅 長 宛

(報告后増減ヲ生シタルキハ此式ニ由リ調製シ其増減ノ事由ヲ金額ノ左側ニ記スヘシ)

第二號式

証

第何號

一金何程

切符何枚

但明治何年度公貯金_上下半年分

右上納候也

年 月 日

郡區長

姓 名 印

收 稅 長 宛

(戸長ヨリ郡區長ヘノ上納証書モ此式ニ據ル)

第三號式

証

第何號

一金何程

何年度公貯金

右正ニ領收候也

年 月 日

郡區長

姓 名 印

何町村(何組)戸長何某宛

第四號式

明治何年度公貯金皆濟帳

郡 區 役 所

廿一年

五十五

明治何年度

地租金何程

一金何程

外金何程 何々(事由詳細ニ付棄捐及損失

右ハ何區郡明治何年度公貯金皆濟書面ノ通候也

年 月 日

郡區長 姓名 印

收稅長宛

第五號式

明治何年度公貯金收入決算仕譯書

組町村名	地租額	公貯金額	損失
	圓	圓	圓

書面ノ通候也

年 月 日

收稅長宛

郡區長 姓名 印

合計			

(郡ハ町村名ヲ記シ區ハ組名ヲ記スヘシ)

(損失欄内ニ記入ノ金員アルルハ備考ヲ設ケ其事由ノ

異ナル毎ニ詳細記載スヘシ)

甲第九號 二月 郡區町村

十一年

水産物統計別紙様式ニ倣ヒ戸長役場ニ於テ調査ヲ遂ケ毎年三月廿日限リ郡區役所ヲ經テ差出スヘシ
右相違ス

水産物統計表調査心得書

- 一 此統計ハ明治二十年以後毎年一月ヨリ十二月マテノ收穫高ヲ掲クルモノトス
- 一 本表ニ掲クル海水産物ノ統計ハ生鮮物ト製造物トヲ問ハス現收穫物ノ總計ヲ掲記スベシ
- 一 本表數量ノ部ニハ箇數斤數ヲ并記スルヲ本旨トスレトモ之ヲ區別シ難キモノハ一項目ヲ掲クベシ
- 一 此統計ニ掲クル品名ニハ悉ク傍訓ヲ付スベシ
- 一 甲號様式中漁戸漁人漁舟ノ三箇ヲ掲クルモノハ其收穫

ニ比例シ漁利ノ多少ヲ別タシカ爲ナリ
 一 前件漁人ト稱スルハ漁家中男女ヲ問ハス實際漁業ニ従事スルモノヲ云フ
 一 此統計ノ調査ハ他マテ精密ナルヲ要ス故ニ雜漁雜介雜藻等ノ名稱ヲ少クシ成ルベク現品ヲ明記スベシ

甲一

品目	量		代價
	箇數	斤數	
海水産物統計表			
		明治何年分	何郡何村
漁戸	専業	戸	合計
漁人	兼業	戸	合計
漁舟	兼業	隻	合計
		戸	合計

右ニ關スル漁場
 何々川
 何々川
 何々湖又ハ沼池
 右ノ外各所

甲第拾號 六月 郡區

客年四月本府甲第拾號遠地券下附書換手數料納付書及納人内譯明細書等取扱手續第壹條中「及ヒ納人ノ内譯明細書等」ヲ拾壹字ヲ削除シ末行履行シノ下「該當月分悉皆取廻メ翌月五日迄ニ」ノ拾五字ヲ挿入シ第壹號樣式中朱書金若干ノ下「即日」若クハ何日「トアル廉々ハ總テ何月何日」ト改ム

右相違ス

甲第拾壹號 八月 郡區町村

本年甲第貳號ヲ以相撲營業人失踪ニ付鑑札引揚税金追徴方相違置候處今般復歸納稅濟ノ旨届出候間右違ヲ取消ス

甲第拾貳號 九月 郡區町村

(本年甲第四十五號ヲ以テ取消)

甲第拾三號 十二月 郡區町村 零

甲第拾四號 十二月 郡區 零

甲第拾五號 十二月 郡區

車稅規則取扱心得別紙ノ通相定メ候條荷積馬車牛車荷積車等從來番號ヲ木札ニ記載シ釘付シタルモノハ此際車体

廿一年

烙記スヘシ

但明治十三年六月當廳達第二十三號其他從前ノ達指令等
此心得ニ抵觸スルモノハ總テ取消ス

右相違ス

車稅規則取扱心得

第一項 凡ソ車ヲ檢査スルトキハ稅則第一則ノ各類ニ從
ヒ逐次番號ヲ定メ馬車ヲ荷積馬車人力車ハ郡區名及番號
ヲ乘蓋背面ニ塗込シメ車輪ニ當廳改印棍棒ニ當廳改印
及ヒ馬車二匹立人力車二人乗ニハ車名ヲ烙記シ荷積馬
車牛車荷積車ハ車輪ニ當廳改印車体ニ當廳改印及ヒ車
名牛車ヲ郡區名頭字並ニ番號ヲ烙記スヘシ
但番號ヲ再記スルトキハ舊番號ハ之ヲ缺號トナスヘ

シ

第二項 凡ソ物品運搬ノ用ニ供使スル車ハ總テ稅則第一

則第七項第八項ニ準シ其稅ヲ徵收スヘシ

第三項 稅則第五則ノ耕作一途用車トハ稅則第一則第三

項第六項第七項第八項ニ該當シ若クハ第七項第八項ニ

準スルモノニシテ農家ニ於テ農具種子肥料塵芥收穫物

ヲ運搬スル自家所用ノ車ヲ云フ

但本項ノ車ニハ車体ニ免稅車ノ檢印ヲ烙記スヘシ

第四項 耕作一途用車ト雖ヒ第三項ニ掲クル物品ヲ販賣

ノ爲メ運搬スルモノハ免稅ノ限ニアラス

第五項 耕作一途用車ノ外左ノ場合ニ供使スルモノハ其

用途ヲ檢定シ免稅ノ取扱ヲ爲スヘシ

但本項ノ車ニハ車体ニ免稅車ノ檢印ヲ烙記スヘシ

一非常專用ノ車

一郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ遞信省ノ指定ニ據リ
構造スルモノ

一公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ

一避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒藥品若クハ死
体汚穢物ヲ運搬スルモノ

第六項 製造所若クハ鐵山借區内ノ如キ一場内ニ專用ス
ルモノ又ハ祭典專用ノ山車ノ如キハ課稅ノ限ニアラス

第七項 免稅車及ヒ前項ノ車ヲ普通ノ用途ニ供使セント
スルモノハ該期ヨリ其稅ヲ徵收シ更ニ普通車ノ檢印ヲ
爲スヘシ

第八項 馬車壹匹立ヲ貳匹立ニ兼用スルモノハ該期ヨリ

其増差ニ係ル稅額ヲ徵收シ貳匹立ノ檢印ヲ爲スヘシ

第九項 馬車荷積馬車人力車牛車荷積車ノ各類中其車類

ヲ變更シ若クハ其一類中馬車馬ノ匹數人力車乘臺ノ横
巾四尺貳尺未滿ヲ貳尺荷積車ノ坪數拾四坪以上ニ未滿ヲ
スルヲ增加シテ稅金ニ増差ヲ生シタルトキハ該期ヨリ
其増差ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第十項 前項車類ノ變更其他々ノ郡區ヨリ買受讓受轉居

シタルモノ等第一項ノ檢印番號ニ異動アルカ若クハ磨
滅毀損シタルモノアルトキハ直チニ之レヲ改正スヘシ

第十一項 凡ソ車ヲ賣買讓渡若クハ持主轉居等甲乙兩郡
區ニ交渉スルトキハ甲郡區役所ヨリ車名番號及ヒ當期

納税ノ既未済ヲ詳記シ乙郡區役所ニ通牒シ乙郡區役所
ハ臺帳登記ノ年月日ヲ回報シ甲郡區役所ハ其回報ヲ俟
ツテ臺帳ヲ刪除スヘシ
但乙郡區役所他ノ府縣管内ナルトキハ臺帳登記ノ年
月日回報ヲ請フヘキ旨ヲ附記スヘシ

甲第拾六號

三月二日

郡 署

甲第拾七號

三月七日

郡 區 町 村

署

甲第拾八號

三月十五日

當廳地方税出納規程ヲ改正シ出納順序ヲ別冊ノ通相定メ

來ル四月一日ヨリ施行ス

右相達ス

京都府地方税出納規程

京都府地方税出納規程目次

第一章	總 則
第二章	簿 記
第三章	豫算調整
第四章	納金授受
第五章	渡金授受
第六章	諸 給 與
第七章	財産取扱
第八章	物品取扱
第九章	精算勘定
第十章	雜 則

以上

京都府地方税出納規程

第一章 總則

第壹條 凡ソ地方税經濟ノ官衙ノ出納ニ關スル事務ハ渾
テ此規程ニ據リ取扱フモノトス

第貳條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ決算ニ結
了ス

第參條 會計ハ一周年度 其年四月一日ヨリ翌年ニ區切甲
年度ノ收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年度ノ收支ニ混用スル
ヲ得ス

第四條 凡ソ計算上ニ用ユル所ノ數字ハ明治七年太政官
第九拾六號公達証書ハ同第四號公達ニ照準スヘシ

第五條 諸簿冊諸書類中記載スル所ノ文字ハ楷書行書ヲ

以テ字書ヲ正クスヘシ決テ草書其他ノ書体ヲ以テスヘ
カラス

第六條 凡ソ員數ニ係ル申牒ハ明治十一年內務省乙第拾
四號達ニ據リ員數毎ニ主任者之ニ捺印スヘシ若シ違算
等アルルハ主任者必ス其責ニ任スル者トス

第七條 凡ソ諸帳簿諸勘定報告表決議書証書ノ類ハ日々
類集シ大切ニ保護シ紛失ノ害ヲキヲ要ス

第八條 凡ソ金錢出納ハ確實詳明ヲ要スルカ故ニ主務課
員ヲ派遣シ検査セシムルモノトス

第九條 凡ソ計算ニ係ルモノハ左ノ四項ニ準スヘシ
一項 金錢ハ厘位 四拾ニ止ム
二項 米穀ハ合位 四拾ニ止ム

三項 反別ハ步位五拾ニ止ム

四項 土地ノ方積ハ勺位五拾ニ止ム

第十條 收入科目ヲ分テ大科目小科目トシ小科目ニ付ス

ルニ節目ヲ以テス支出科目ヲ分テ大科目中科目小科目

トシ小科目ニ附スルニ細節ヲ以テス

但科目ノ解疏ハ別ニ定ムル處ノ規則ニ依ルハシ

第二章 簿記

第十一條 凡ソ金錢ヲ出納スルハ簿記ノ體裁ヲ完備ニシ

登錄ノ詳密ナルヲ要ス依テ左ノ簿冊ヲ設置スルモノト

ス

一日計簿

是ハ壹號書式ニ倣ヒ本假請拂ハ勿論返納交換等

至マテ毎日出納スル一切ノ金錢及ヒ請拂摘要ヲ撰
記シ科目番號ヲ附シ請拂差引殘金ヲ請拂簿追算簿
操替簿等ニ照合スヘシ

一 受拂簿

是ハ貳號書式之如ク收入支出毎科目ニ部分ク登記
シ日計通計ヲ付シ元拂殘ノ合計差謬ナキヲ要シ勘

定帳明細表仕組ノ根據トスヘシ

一 追算簿 追算トハ經費ノ内ヲ以テ仮渡ヲナシ以テ決算

ニ立ツ月給又ハ旅費等ノ前渡スルモノヲ云

是ハ三號書式ノ如ク日計簿ニ掲クル請拂ノ内本拂

ニ至ラサルモノハ詳細部分シテ登記スヘシ其決算

ニ至ルルハ最前ノ假拂高ヲ返納シ以テ式ノ如ク消

抹シ其決算高ハ更ニ日計簿請拂ニ登錄ス若シ半ハ

決算ノ半ハ未決算ナルトハ假拂ノ廉一旦返納取消
 而シテ其未決算額ノミ更ニ假拂ニ立テ之ヲ日計簿
 追算簿ニ登録スヘシ順次此ノ如クニシテ之ヲ調査
 シ決算ノ濟否ヲ改ムルモノトス
 一 繰替簿 繰替トハ經費ノ内ヲ以一時繰替置追テ
 是ハ記帳方追算簿ニ畧全シ
 一 豫算差引簿
 是ハ四號書式ニ倣ヒ豫算ト實支ト差引日々其増減
 殘額ヲ見ルモノトス
 右之外計算上便利ノ爲メ種々ノ補助簿ヲ設クルハ各
 役所ノ適宜タルヘシ
 第拾貳條 凡ソ簿冊憑書類中若シ誤寫スル等ノヲアルト

雖ハ漫リニ削除塗抹スルヲ許サス脱落アルト雖モ恣ニ
 補綴糊貼スルヲ許サス更正一々法ニ是レ因リ書損ヲ訂
 正スルヤ
 二 線ヲ畫シ之ヲ消抹シ正字ヲ檢印ヲ証シ後來彼レヲ是
 朱書ニ朱書ハ墨書スルカ如シ
 三 改訂セシ形跡ノ判明ナルヲ要ス
 第拾三條 凡ソ記帳シタル金員ハ憑書ト證券等ニ照查ス
 ルモノトス
 第拾四條 凡ソ日計月計ノ調査ハ必ス立會人之レニ認印
 スヘシ
 第拾五條 諸簿冊ハ非常ノヲアルニアラサレハ諸所外ヘ
 提出スルヲ禁ス
 第拾六條 簿記計算上ノ照會等ニテ他ヨリ簿冊ノ閱覽ヲ
 請フト雖モ隨意ニ展縮ヲ許サス假令照查ヲ乞フノ理由

ナルモ主任者自ラ照校シテ其當否ヲ報スヘシ
但主務課検査員及ヒ府知事ヨリ特ニ命シタルモノハ
此限ニアラス

第拾七條 凡ソ帳簿ハ必ス憑書ニ就テ記入スルヲ則トス
依テ口授等ニヨリ記入スルヲ許サス而シテ憑書ヘハ必ス
役所長(長不在ナレバ其代理者)檢印ヲ証スルモノトス

第拾八條 諸帳簿中若シ填書改竄塗抹毀損等ノ事アリ其
擔任者之レヲ知ラサルモ其責任ハ免ル可カラサルモノ
トス

第拾九條 日々抽出セル諸簿冊等ハ退出前必ス一定ノ場
所ニ納メ一モ之レヲ亂置スルヲ許サス
第貳拾條 簿記擔任ノ者ハ其日ノ記載ヲ完了セザレハ退

出ヲ許サス

第三章

豫算調整

第貳拾壹條 凡ソ豫算ハ毎年八月中主任者精細論議ヲ盡
シ第伍號書式ノ豫算書及ヒ第陸號書式ノ内譯明細簿一
通ヲ作り差出スモノトス

第貳拾貳條 凡ソ經費ノ定額ハ毎年府知事ヨリ達スルニ
付其支出ヲ要スルヤ必ス該額ニ據ヘシ故ニ豫算外ノ費
途ヲ要スルルハ事實ヲ具狀シテ府知事ノ指令ヲ乞フヘ
シ

第四章

納金授受

第貳拾三條 凡ソ諸收入豫算金額ハ實收ノ緩急ニ應シ費
途ノ順序ヲ考量スヘキモノニ付第柒號書式ニ據リ收入

金月額表壹葉ヲ作り豫算決定額ノ達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ差出スモノトス

第貳拾四條 凡ソ收入金ハ爲換方ノ預リ証書ヲ以テ納ムルモノトス

第貳拾五條 收入金ヲ府廳へ上納スルルハ第八號書式ノ納証及ヒ第九號仕譯書ヲ添付スへシ府廳ヨリハ領收証ヲ交付スルモノトス

但地方稅徵收順序ニ定メタルモノハ此限リニ非ス

第五章 渡金授受

第貳拾六條 凡ソ支出豫算金額ハ費途ノ緩急ニ依リ渡金ノ順序アルヘキニ付第拾號書式ニ照シ支出金月額一葉ヲ作り豫算決定額ノ達ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ差出

スモノトス

但臨時月額ニ異動ヲ來スルハ必裁可ヲ請フモノトス

第貳拾七條 支出月額表ノ金員ハ區郡連帶部區部郡部爲換方ヨリ仕拂ノ都度現金ヲ以仕拂フヘキニ付豫テ設ケアル切符用紙ニ金額及受取人ノ氏名ヲ記入シ之ヲ受取人ニ渡ス受取人ハ直ニ現金ヲ引出スモノトス

第貳拾八條 凡ソ金員ヲ授受スルルハ必ス爲替方ノ預リ切符爲換証券及ヒ支出切符ヲ以テ取扱フモンナレハ人民ニ對シ納拂スルルモ都テ証券ヲ以テ出納スヘシ故ニ實際止ムヲ得サルニアラサレハ現金ヲ取扱フヘカラス

第六章 諸給與

第貳拾九條 凡ソ地方稅ヲ以テ給與セルモノハ別ニ定ム

ル所ノ規則ニ依ル

第七章

財産取扱

第三十條 凡ソ地方税ヲ以テ購入セル地所建家其他財産
ハ此出納規程ヲ以テ取扱スルモノトス其取扱ノ順序ハ
別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第八章

物品取扱

第三十一條 物品使用ハ左ノ項ニ依リ取扱フヘシ
一項 備付品ハ貸與ト備付ノ二種トシ消耗品ハ渡切リ
支消スルモノトス故ニ第十壹號第十貳號書式ニ倣ヒ
二簿冊ヲ作り一々主任者ノ檢印ハ勿論受取人ノ名印
年月日使用ノ旨趣ヲ簡明ニ記入スヘシ
二項 物品ハ毎月末係員二名以上立會簿冊ト現品トナ

照合スヘシ若シ過不足アルカ又ハ漏ノイアルトハ
主任者其責ニ任スルモノトス

第九章

精算勘定

第三十二條 精算勘定ハ渡金ニ對シテハ必ス請求人ヨリ
請求書ヲ徴シ每一ヶ月取經メ第十三號書式ニ倣ヒ翌月
十日限リ雜收入勘定ハ一周年度ヲ以テ第十四號書式ニ
倣ヒ毎年四月三十日迄ニ調製シ該地ヲ差立ルモノトス
第三十三條 精算勘定ハ之ヲ大別シテ左ノ二種トス

一 項 日勘定

是ハ日々ノ收支ヲ日計簿ヨリ諸掛簿追算簿ニ騰寫シ
之ヲ算計シテ日計簿ト照合スルモノトス

二 項 半期勘定

廿一年

是ハ毎半期ノ仕拂ヲ受拂ニ照合シ第拾五號書式ニ倣
 ヒ明細表ヲ編成シ翌月末迄ニ該地ヲ差立報告スヘシ
 第三拾四條 月給旅費諸經費等假出ノ金額ハ可成丈ケ其
 月中ニ本拂ニ決算スヘシ若シ遠隔ノ地ヘ假出或ハ換換
 等ヲ要シ決算スルヲ得サル場合ニ於テハ府知事ノ指令
 ナ乞フヘシ

但翌年度ヘ越ユルヲ許サス

第三十五條 土木費營繕費等ノ事業ニシテ其年度内ニ於
 テ竣成ニ至ラサルモハ經伺ノ上該年度後三ヶ月間決算
 ナ猶豫スルコアルヘシ

第三十六條 一週年度ノ出納ハ四月一日ニ於テ之ヲ開始
 シ該年度經過ノ後四ヶ月ヲ限リ之ヲ閉鎖スヘシ

但地方税ノ前收及ヒ費用ノ前渡ハ此限ニアラス且第
 三十四條ノ如キモノ年度後四ヶ月以上ヘ跨ルモノハ
 該條ニ因テ三ヶ月限リ打切決算スヘシ

第三十七條 第三十五條ヘ掲載外ノ事項ニシテ翌年度期
 四月一日以後ニ至リ更ニ支出ヲ要求スルトモ成規ニ悖
 戻スルヲ以テ決シテ仕拂スヘカヲサルモノトス

第三十八條 經費勘定ハ府廳ニ於テ検査濟ノ上每一月主
 務課ヨリ仕拂濟證書ヲ交付シ一週年度精算簿ヲ議會ヘ
 報告ノ后ヲ府知事ヨリ決算濟證書ヲ下付シテ仕拂濟証
 書ト交換スヘシ且收入勘定帳ハ府廳ニ於テ検査濟議會
 ヘ報告ノ後府知事ヨリ決算濟證書ヲ下付スヘシ故ニ各
 役場ニ於テハ之ヲ保存シテ後証ニ備フルモノトス

第三十九條 第三十二條ニ對シ各自ヨリ徵ス處ノ請求書及領收證ハ第十六號第十七號書式ニ倣ヒ凡全一ナルヲ旨トス

但領收證書ハ其役所ニ保存シ後日ノ証左トス

第拾章 雜則

第四十條 備荒儲蓄金及ヒ寄託金ノ出納ト雖此規程ニ從ヒ日計簿ヘ記入スヘシ而シテ該金收支ノ受拂簿ヲ設置シ收支ノ報告等ハ別ニ定ムル處ノ規則ニ據ルヘシ

第四十一條 土地家屋ヲ借受クルルハ料金を詳細ニ取調繪圖面并ニ契約書ヲ添ヘ經伺ノ上取計フヘシ其土地及ヒ家屋ヲ購買シ又ハ家屋ヲ新營修繕セント欲スルルハ費用ノ見込及ヒ繪圖目論見帳等ヲ作り事由ヲ詳悉シテ

府知事ノ許可ヲ乞フヘシ

但別段ノ違ヲ以テ許可シタル修繕ノ如キハ此限ニア

ラス

第四十二條 收入ニ係ル順序ハ別段ニ定メタル規則ニ依ルヘシ

第四十三條 規程第十一條ニ掲クル所ノ單記法ヲ用イス特ニ複記法ヲ用ユル時ハ渾テ十一年第四十二號公達ニ據ル

(表紙)

第壹號

日計簿

(金錢記入ノ諸簿冊ハ渾テ員數ノ傍ラニ主任者捺印スヘシ)

紙員何枚
元請之部

何役所

九十

何月何日			地方稅收	號	金何圓	何年度前 後半年分
何月何日			雜收	號	金何圓	何々品賣却代何郡何村姓名納
何月何日			小計	號	金何々圓	
經費	收	號	金何々圓	何月分經費月額トシテ元受		
全收	號	號	金、、、	何月分經費月額ニ對シ不足又ハ 別途請求元受		
修繕費	收	號	金、、、	其修繕費トシテ別途請求高		
寄托	收	號	金、、、	何某下賜金寄送ニ付請入		

仕辨之部

公儲	收	號	金、、、	何年度前 後半年分
返納	收	號	金、、、	官姓名月給又ハ旅費假拂ノ内へ 戻入
何々	收	號	金、、、	何々
通計			金何々 <small>(二日目ヨリ通計ヲ付 スヘシ辨ノ切モ全シ)</small>	

何月何日			地方稅支	號	金何々	何年度前 後半年分ノ内本府納
何月何日			雜收支	號	金、、	何々品賣却代本府納
何月何日			小計	號	金、、、	

廿一年

九十一

經	費	支	號	金何々	官姓名何月分係給其他何々	
修	繕	費	支	號	金、	其修繕費何某渡
寄	託	支	號	金、	何某下賜金等寄送ノ分	
公	儲	支	號	金、	何年度 <small>前</small> 後半年分ノ内本府納	
假	出	支	號	金、	官姓名月給何月分操換渡	
通	計	金	何、			

差引殘之部

何月何日

一金何程

何月何日

一金何程

(表紙)

第貳號

受 辨 簿

(小科目毎ニ見出テ附スヘシ)

紙員何枚

何 役 所

俸給元之部

何月何日

收	號	金何、	何月分月額元受
收	號	金、	何々

何々月給辨之部

廿一年

何月何日

九十四

合 計 金	支 號 金	支 號 金
	何々	何月分 官姓名外何人
		官姓名

俸給抽計之部

何月何日

支
號
金

何月分俸給

俸給殘之部

何月何日

一金何圓

(表紙)

第三號

追算簿

紙頁何枚

何役所

何月何日

斜線ハ㊦

何月何日返納

官姓名何所出張ニ付何月ヨリ
何月迄何ヶ月分月給前借

一金何圓

何月何日返納

一金何圓

何々

合計金何圓

廿一年

九十五

何月何日

何々

一金何圓
逆計金何圓

内

金何圓

何月何日官姓名渡ノ分
返納決算済

差引

金何圓

何月何日

一金何圓

何々

逆計金何圓

内

金何圓

何月何日官姓名渡ノ分中仕
切決算ニ付証書返納高

一金何圓

何月何日官姓名渡ノ内返納殘リ
更ニ前借

差引

金何圓

(表紙)

第四號

豫算差引簿

紙頁何枚

何役所

何々費

豫算額	月 日	假 出		精 算		豫算ト 補算ノ 差引	豫算ト 支出ノ 差引
		金員 累計	10000	金員 累計	10000		
100000	四月一日						

廿一年

九十七

百

内譯

金

金

金

支出之部

一金

内譯

金

内

金

金

内

不用物品賣却代(小科目)

物品貸渡料

懲役人傭工錢

何費(何役所又ハ何學校何警察署何
獄支署ノ類ニテ科目ヲ掲ク)

俸給(中科目)

何々月給(小科目)

雜給

金

一金

内譯

金

内

金

諸雇給

大科目

中科目

小科目

通計金

右者自明治何年四月至同何年三月地方稅收入支出豫算書
面ノ通有之候也

役所長

年號月日

官姓名印

京都府知事

廿一年

百一

(表紙)

第六號

明治何年度地方稅收入支出豫算内譯明細書

紙員何枚

何 役 所

明治何年度地方稅收入支出豫算内譯明細書

收入之部

前年度豫算額

不用物品賣却代

金

是ハ前年度ノ豫算額ニ對比シ金何圓ヲ増セルハ何々

ノ理由ニ據ル云々(此説明ハ可成丈ク詳細ニ記載スル

モノトス

前年度豫算額

金

此項ハ朱
書以下收
支皆全シ

一金

是ハ云々

何 々

金

前年度豫算額

合計金

支出之部

前年度豫算額

金

一金

俸 給

内譯

何々月給

金

是ハ月給何圓取何人此金何圓同何圓取何人此金
何圓合金本行ノ通りニシテ之ヲ前年度ニ比シ金
何圓増スルハ月給何圓取何人ヲ減増スルニ依ル

廿一年

百三

一金

前年度豫算額

雜給

內譯

金

諸雇給

內

金

小使給

金

是ハ月給何圓取何人此金何圓日給何錢取何人一ヶ年三百六十五日積リ此金何圓合金何圓ニシテ之ヲ前年(此以下前項ノ事由ノ如クスヘシ)是ハ日給何錢取何人定用雇トシテ一ヶ年三百六十五日分合金何圓日給何錢取何人一ヶ年平

均二百日間雇上ク此合金何圓通計本行ノ通りニシテ(此以下全上)

金

何々旅費

是ハ何々官登人旅費日當何日分一日金何圓ツ、里程何里一里ニ付何錢合金何圓以下做之

前年度豫算額

應費

一金

內譯

金

備付品

是ハ何々

金

消耗品

以下做之

十一年

前年度豫算額

金
合計金

右者自明治何年四月至全何年三月地方稅收入支出豫算內
譯書而之通有之候也

役所長

年號月日

官 姓 名 印

京都府知事

第七號

明治何年度地方稅收入金月額表 何 役 所

四	月名	地租割稅	營業稅	雜種稅	戶數割稅	雜收入	計
	科目						
月							

三	二	一	十二	十一	十	九	八	七	六	五
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

廿一年

百七

(役所長)

年號月日

京都府知事

官 姓 名 印

第拾號

明治何年度何々費月額表

月名/科目	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	月 計
俸						
給						
雜						
給						
應						
費						
營繕費						
計						

計	三 月	二 月	一 月	十二 月	十一 月	十 月	九 月

右之通有之候條御送遣相成度候也

(役所長)

年號月日

官 姓 名 印

廿一年

(表紙)
第拾三號

明治何年度何月經費精算勘定帳

紙頁何枚

何役所

明治何年度何月經費精算勘定帳

一金

仕拂高

金

内課

俸

給

金

内

何々月給

金

雑

給

内

諸雁給

金

何々

廿一年

百十五

金

内

何

々

百十六

金 金

何 何

々 々

右者明治何年何月経費精算勘定書面之通相違無之候也

(役所長)

年號月日

官 姓 名 印

京都府知事

(表紙)

第拾四號

明治何年度地方税雜收入勘定帳

紙頁何枚

何 役 所

朱書

豫算高金

明治何年度地方税雜收入勘定帳

一金

内譯

金

合計金

右者何年度地方税雜收入皆濟書面之通、相違無之候也

(役所長)

年號月日

官 姓 名 印

京都府知事

(表紙)

第十五號

廿一年

百十七

年號何年自何月何々費明細表

何役所

年號何年自何月何費明細表

郡區連帶部費郡部費

一金

出納主任官姓名印

內譯

名	稱	壹人月給	人	員	金	員
	細計	何々月給				
何	小計	俸給				
	々	壹人日給	延人	日	數員	金員
人力車	度	數	人	員	、	員

名	稱	里數	日數	人	員	金	員
	細計	被服費					
○品	細計	目	新	調	修	繕	金員
	細計	賞與					
○事	細計	項	人	員	金	員	員
	細計	勉勵賞與					
何	人	員	賞	與	額	金	員
	何	人	何	圓	何	圓	員
○人	細計	給助金					員
	細計	諸雇給					

廿一年

細計	何々	夜勤	宿直賄	事項人員	細計	何錢	稅券種類	物品	金員
			何人	人員		何手	員		何
			何人	一人一食賄		枚	數		度
			何錢	延賄數		何	計		何
諸賄料			何食	郵便電信			巡送費		
			何圓	計金				圓	

百廿一

事	細計	品	細計	品	小計	細計	瀨何々	管外	管內	區內
							車間		何里	
									何日	何日
									何人	何圓
				雜給	何々旅費					
		目數	目數	全代價	修繕數	全代價	金員			
		量	金	備付品						
		消耗品								
		員								

百二十

○事	項	數	量	金	員
	細計		雜	費	
○事	項	度數或月數	金	員	
	細計		廐	費	
小計			廐	費	

④本表書式ノ外囚人諸費ニ係ル書式從前之通本表中○点
ヲ付スルモノハ警察及監獄費適用ス

本表書式外ニ係ルモノハ概テ從前ノ書式ニ據ル

第拾六號

(本書式ハ大畧ヲ示セルモノニシテ其他都テ之ニ倣ヒ
可成詳細ナルヲ旨トス)

請求書

一金何圓^④

管(内)(外)旅費

但何々御用ニ付何月何日何處出立何月何日歸着此日
數何日迄里程何里

内

金何圓^④

日 當

但何月何日何處出立全日(翌何日)何處着何日全所出
立何日何處着何日全所滞在何日全所出立歸着(以下
倣之)此日數何日分一日金何錢宛

金何圓^④

車 馬 賃

但何處ヨリ何處マテ此里程何里何處ヨリ何處此里
程何里(以下倣之)此合里程何十何里一里ニ付何錢宛
其他倣之

右請求候也

(役所名(住所))

年號月日

(官) 姓 名印

役所長宛

第拾七號

領收証

一金何圓

何々

以下書式請求書ニ全シ

右領收印候也

(役所名(住所))

年號月日

(官) 姓 名印

役所長宛

(表紙)

京都府地方税出納順序

地方税出納順序

第一章

各役所ノ經費

第一條 地方税經濟ニ屬ス各役所ノ經費ハ規程第二十六

條ニ依リ定メタル豫算月額ニ基キ支出スルモノトス

第二條 前條月額ヲ改訂セントスルトキハ役所長ハ訂正

月額表ヲ製シテ之レヲ府廳ヘ送付ス

第三條 地方税經濟ニ屬ス金錢ノ支拂ヲナストキハ規程

第三十九條第十六號書式ノ請求書及領收証ヲ徴スルモ

ノトス

第四條 各役所ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ出納主任

廿一年

百廿五

ハ前條請取書ニ依リ其當否ヲ審査シ而シテ支出票書ヲ
製シテ役所長ノ裁可ヲ請フ

第五條 出納主任ハ前條ノ裁可ヲ得タルトキハ仕拂切符
元帳ニ金員事由ヲ記載シ仕拂切符ニ番號金員請取人ノ
姓名切符發行ノ年月日等ヲ記入シ主任記名捺印シ案内
書ニハ番號金員所屬年度受取人ノ姓名切符發行ノ年月
日ヲ記入シ主任記名捺印シ元帳及ヒ仕拂切符案内書ト
接續ノ所ヘ割印シ之レヲ切斷シテ案内書ハ爲替方稅地方
替方ヲ云已下爲替方ヘ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付
シテ其領收証ヲ徵ス

第六條 遠隔地方ノ人民ニ支拂金ヲ送付セントスルトキ
ハ前條ノ手續ニ依リ仕拂切符ヲ發行シ之レニ對スル送

金手形ヲ爲替方ニ請求シ之レヲ請取人ニ送付シテ領收
証ヲ徵ス

但本條送金手数料ハ該手形ヲ請求セシ役所經費ノ支
辨ニ屬ス

第七條 送金手形ヲ以テ交付シ難キ地方ノ人民ニ支拂金
ヲ送付セントスルトキハ順序第四條第五條ノ手續ニ依
リ仕拂切符ヲ發行シ之レニ對スル現金ヲ爲替方ニ請求
シ之レヲ請取人ニ送付シテ領收証ヲ徵ス

但全上

第八條 爲替方ヨリ仕拂切符ノ書式成規ノ如クナラサル
カ又ハ案内書ト符合セサルトアルカナ通知スルトキハ
該切符ヲ發シタル出納主任ハ其理由ヲ審査シ該切符若

シ証書ノ効力ヲ失ナフニ至ラサル場合ナルカ又ハ案内
書ノ誤謬ナレハ其切符ノ正當ナル保証書ヲ爲替方へ送
付シテ仕拂ヲ請求シ該切符若シ証書ノ効力ヲ有シ難キ
場合ニ於テハ其旨ヲ爲替方ニ報シテ仕拂切符ヲ持參人
へ返付セシメテ請求シ其偽造變造ニ係ルトキハ法ニ據
リテ取扱ハセシムルコトアルヘシ

但本條証書ノ効力ヲ失フニ至ラサル場合トハ番號年
月日ノ脱落書損金額ニ關セサル文字ノ誤謬又ハ汚染
損傷シタルモ尙其真正ナルヲ保証シ得ル場合ヲ云ヒ
証書ノ効力ヲ有シ難キ場合トハ金員ノ脱落書損塗抹
押印ノ脱落若シクハ紙面ノ必要ナル點ニ改描ノ形蹟
アルモノ若クハ汚染損傷ノ甚シクシテ眞贋ノ鑑別ヲ

ナシ難キ類ノ場合ヲ云フモノトス

第九條 前條爲替方ヨリ請取人ニ仕拂切符ヲ返付シタル
場合ニ於テ其所有者ヨリ該仕拂切符ノ書替ヲ請求スル
トキハ出納主任ハ書換ヲナスヘキ正當ノ理由アリト見
認ルトキハ役所長ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ
舊仕拂切符ト交換ス

但本條ノ場合ニ在テハ爲替へ報告シ且府廳へモ通報
スヘシ

第十條 仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ノ書替ヲ請求セ
ラル、トキハ出納主任ハ役所長ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂
切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス
但全上

第十一條 仕拂切符ノ替替ヲナストキハ通常仕拂切符發行ノ手續キニ依リ仕拂切符并ニ案内書ヲ製シ元帳ニハ朱書ヲ以テ金額事由等ヲ記入シ割印シテ之レヲ切斷ス但再發仕拂切符ヲ製スルニハ交換ノ請求僅少ナレハ通常使用スル仕拂切符簿中ヨリ通常ノ仕拂切符發行ト同一ニ順ヲ逐フテ之ヲ製シ元帳ヲ合計スルトキ朱書ノ分ヲ扣除スルモノトス又其交換頻繁ニシテ取扱上混雜ヲ生スル恐レアルトキハ再發ノ爲メ別ニ仕拂切符簿ヲ置クモ妨ケナシ尤モ再發仕拂切符ノ年月日ハ新ニ發行ノ年月日ヲ記入スルコト勿論ナリトス

第十二條 出納主任ハ順序第九條第十條ニ據リ仕拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊仕拂切符ニ消印ヲナシ

役所長ニ之レヲ證明ス

第十三條 郡區長ハ毎戶長役場ノ經費月額ヲ定メ戶長ヘ達ス

第十四條 戶長ハ役場經費ノ支出ヲ要スルトキハ各自ヨリ請求書ヲ徵シ之レニ合計書式勘定帳ニ添ヘ郡區長ニ請求ス

第十五條 郡區役所ノ出納主任ハ前條ノ請求書ヲ審査シ順序第四條第五條ノ手續ニ依リ合計金ニ對ス仕拂切符ヲ發行ス

第十六條 戶長ハ前條ニ依リ請求金ノ交付ヲ受クルトキハ之レヲ各自請求人ニ交付シテ領收証ヲ徵ス

第十七條 各役所長ハ毎月支出ヲ裁可シタル票書且帳簿

ニ基キ規程第卅二條ニ據リ支出勘定帳ヲ製シ之レニ請
求書(現金請取人ヨリ)ヲ添ヘ府廳ヘ送付ス

但戶長役場ニ係ル勘定帳(每戶長役場ノ支出ヲ每)ハ郡
區長之レヲ製シ本條同一ノ手續キヲ爲ス

第十八條 前條ノ手續ニ依リ府廳ヘ送付セシ勘定帳ニ誤
謬アリ爲メニ追給ヲ要スルトキハ出納主任ハ順序第四
條第五條ニ依リ支拂切符ヲ發行シ又過渡追徴ヲ要スル
ニ於テハ役所長ノ裁可ヲ得テ該過渡シ金ヲ請取人ヨリ
爲替方ノ預リ証書ヲ以テ返納セシム

但本條ノ場合ニ在テハ追給ノ分ハ該月(新クニ渡シタ
ル月ヲ云フ)
ノ勘定ニ編入スル勿論ナリト雖モ過渡追徴ノ分ハ勘
定帳及請求書ヲ訂正スルモノトス

第十九條 前條返納金ハ役所長ノ納付証書ヲ添ヘ府廳ヘ
送付ス

第二十條 仮拂金ノ支出ハ順序第四條第五條ノ手續キニ
依リ出納主任ハ支拂切符ヲ發行ス

但本條ニ依リ發行シタル支拂切符ハ仮拂金タルトシテ
判別スル爲メ支拂切符元帳及案内書支拂切符ヘ仮拂
ノ朱印ヲ捺スルモノトス

第二十一條 出納主任ハ前條仮拂金ニ對シ精算金ヲ交付
スルトキハ直チニ役所長ノ裁可ヲ得テ前日交付セシ仮拂
金ハ其請取人ヨリ爲替方ノ預リ証書ヲ以テ返納セシム
第二十二條 前條ノ手續キニ依リ返納シタル爲替方ノ預
リ証書ハ之レヲ爲替方ニ返付シ爲替方ヨリハ裁ニ發行

セシ支拂切符ヲ還付セシム

第二十三條 出納主任ハ前各條ノ手續キニ依リ收支ヲ執行スルトキハ之レニ對スル票書ニ基キ規程第十一條ニ據リ各帳簿ニ登記ス

第二章 雜收入

第二十四條 雜收入金ハ爲替方ノ預リ証書ヲ以テ收入シ役所長ハ之レヲ每一ヶ月ニ取纏メ上納証書ニ仕譯書ヲ添へ府廳へ送付ス

第二十五條 出納主任ハ前條收支毎ニ票書ヲ製シ役所長ノ裁可ヲ請ヒ而シテ規程第十一條ニ據リ帳簿ニ登記ス
第三章 爲替方

第二十六條 爲替方ハ仕拂切符ノ所有者ヨリ仕拂切符ヲ

持參シテ現金ノ仕拂ヲ請求セシトキハ即時之レヲ發シ其役所ヨリ送付ヲ受ケタル案内書ニ照合シ仕拂切符表面ノ金額ヲ交付ス

第二十七條 爲替方ハ前條ノ仕拂ヲ終ルトキハ即時引上タル仕拂切符案内書ノ表面ニ仕拂濟ノ印ヲ捺ス

第二十八條 爲替方ニ於テ仕拂金ノ記帳ヲナスハ仕拂切符ニヨリ其所屬年度ハ案内書ニ據テ判別ス

第二十九條 爲替方ハ各役所出納主任ヨリ仕拂金ノ案内書ヲ受ルトキ豫テ府廳ヨリ命令セル金額ニ照合シ若超過スルトキハ即時其案内書ヲ返付シテ仕拂カタキ旨ヲ通知ス

第三十條 爲替方ハ仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ヲ以

ヲ現金ノ仕拂ヲ請求セラル、トキハ其仕拂ヲ謝絶シ仕
拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告ク

第三十一條 爲替方ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受クルトキ仕拂

切符ノ書式成規ノ如クナラサルカ又ハ案内書ト符合セ
サルコアル等ニヨリ仕拂ヲナシ難シト見認ルトキハ該

切符持參人ニ事由ヲ告ク其住所姓名ヲ尋問シ該切符ノ
金員番號記名者ノ姓名及預リ日限ヲ記載シタル預リ証
書ヲ交付シテ其仕拂切符ヲ留置ク

但本條預リ証書ハ各爲替方適宜ニ之レヲ製スルモノ
トス

第三十二條 爲替方ハ前條ノ手續ニヨリ仕拂切符ノ留置

ヲナストキハ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該仕拂

切符ニ添へ其出納主任へ報ス

第三十三條 爲替方ハ前條照會ニヨリ出納主任ヨリ該切

符ノ正當ナルヲ保證シ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ直

ニ之カ仕拂ヲナシ若シ該切符ヲ其持參人ニ返付ヲ命シ

タルトキハ前日交付シタル預リ証書ニ引替へ之レヲ還
付ス

第三十四條 仕拂切符ノ仕拂期限ヲ經過シ尙仕拂ノ請求

ヲキトキハ爲替方ハ豫テ受入レタル案内書ヲ一ヶ月三

回乃至五六回ニ取纏メ其送付シタル役所へ還付ス

但出納主任ノ請求アルトキハ其都度案内書ヲ還付ス
ルコアルヘシ

第三十五條 爲替方本店ハ順序第二十六條第二十七條ニ

據リ仕拂濟ノ切符ハ每一ヶ月ニ取經計算シテ爲替方命令書第三條ニ依リ上納金ノ手續ヲ爲ス

但支店代理店ニ於テ仕拂濟ノ切符ハ本店へ回付シテ本條ノ手續ヲ爲ス

第三十六條 爲替方ハ仮拂ノ朱印ヲ捺シタル仕拂切符ヲ持參シテ現金ノ仕拂ヲ請求セルトキハ順序第二十六條ニ依リ豫テ府廳ヨリ命令シタル豫備金ノ内ヨリ仕拂フヘシ

第三十七條 爲替方ハ前條豫備金ノ内ヨリ仕拂タル金額ヲ返納スル爲メ現金或ハ本拂ノ仕拂切符ヲ持參シテ預リ證書ヲ請求スルトキハ現金或ハ切符ヲ請取リ預リ證書ヲ製シテ請求人ニ交付ス

但本條預リ證書ハ爲替方適宜ニ製スルモノトス

第三十八條 爲替方ハ前條請求人へ交付セシ預リ證書ヲ出納主任ヨリ返付スルトキハ順序第三十六條ニ依リ繰ノ仮拂支拂簿ノ切符ヲ出納主任ニ還付ス

第三十九條 爲替方ハ順序第六條ニ依リ送金手形ヲ請求セラル、トキハ之レヲ發行シ該手数料ハ送金手形ヲ請求セシ役所へ請求ス

第四十條 爲替方ハ雜收入金若シクハ過渡追徴金ヲ上納スルタメ現金ヲ持參シテ預リ證書ヲ請求セラル、トキハ現金ヲ請取リ預リ證書ヲ製シテ之レヲ請求人ニ交付ス

第四十一條 爲替方本店ハ前條ノ預リ證書ヲ府廳ヨリ還

付スルトキハ爲替方命令書第二條ニ依リ本預リ金ノ手續キヲ爲ス

第四章 寄託金

第四十二條 各役所經費外ノ金員ヲ府廳若シクハ各役所ヨリ請入ルルハ出納主任ハ票書ヲ製シ役所長ノ裁可ヲ請ヒ而シテ各役所長ノ命令シタル爲替方へ預ケ入ヲ爲ス

第四十三條 出納主任ハ前條受入金ノ支出ヲ要スル毎ニ順序第四條第五條ノ手續キニ準シ各役所長ヨリ命令シタル爲替方ニ宛テ支拂切符ヲ發行ス

第四十四條 出納主任ハ前條ノ手續キニ依リ收支ヲ執行スルトキハ之レニ對スル票書ニ基キ帳簿へ登記ス

第四十五條 各役所ノ爲替方ハ順序第四十三條ニ依リ出納主任ヨリ發行セシ仕拂切符ヲ持參シテ現金ノ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ順序第二十六條ニ準シ該金額ヲ交付シ而シテ該役所ニ對シテハ預リ金上納ノ手續キヲ爲ス

甲 第九號 三月 區

其役所經費金支拂ヲ自今區部爲換方ニ於テ取扱ヲ爲サシ

但四月一日ヨリ施行ス

右相違ス

甲 第十號 三月 郡

其役所經費金及備荒貯蓄金ノ支拂ヲ自今郡部爲換方ニ於

廿一年

ヲ取扱フ爲サシム

但四月一日ヨリ施行ス

右相違ス

甲第貳拾壹號 三月 郡區 零

甲第貳拾貳號 三月 郡區

所得稅納人他ノ郡區へ轉居ノ節該稅法施行細則第九條ニ據リ轉居先ノ郡區長へ通報ノ場合ニ於テハ其通報書中ニ本人轉居屆濟ノ時日通知有之度旨ヲ附記シ臺帳ハ他日其回報ヲ待テ削除スヘキ義ト心得ヘシ

右相違ス

甲第貳拾三號 四月 郡區町村

奈良縣知事ヨリ左記ノ通照會有之候條證明書下付方申出

候者有之候ハ、取調ノ上下付スヘシ

右相違ス

警第拾六號

當縣巡查在職ノ者左ノ場合ニ遭遇シタルルル第一項ハ其地警察署分署郡區役所戸長役場等ノ内へ第二項ハ警察本分署ノ内へ願出証明書ヲ受ヘキ旨相違置候間將來倘シ願出候者有之候ハ、其事由取調ノ上証明書付與相成候様豫メ其筋へ御達置相成度此段及御依頼候也

明治十一年三月廿三日 奈良縣知事 子爵稅所 篤

京都府知事北垣國道殿

一 歸省又ハ旅行疾病天災等ノ爲メ賜暇限内ニ歸任シ能

ハサルル

廿一年

二誓約限内父母疾病ニ罹リ他ニ侍養者ナク若クハ變災ニ據リ一家ヲ維持シ難ク爲メニ辭職セントスルル

甲第貳拾四號 四月十二日 郡 署
甲第貳拾五號 四月十七日 郡 區

明治十年八月八日當應甲第九十一號ヲ以テ相違候租稅計算整理順序諸表調製心得第一項中「フールスカップ」ヲ美濃界紙ト改メ同第三項中亞刺比亞ノ四字刪除候條明治二十一年度ヨリ別紙様式ニ準シ調製スヘシ

右相違ス

第一號 第何號
第二號 明治何年度
第四號 明治何年(前半年分)新規(自何月至何月)(第何期)

内國稅表(追加稅表) 何郡區役所
何稅 何稅 何稅

第五號 第六號 第七號 第八號 第九號 第十號	科目	摘要	員數	稅額	備考
何稅	何稅				
何稅					
何稅					
何稅					
何稅					

廿一年

廿一年

				何稅		
何々	何々	何々	何々		稅額	代金割引高

百四十九

證券印稅

科目

計	何錢	何錢	何錢	何厘		摘要
						枚數代金 百分之七
						枚數代金 百分之八
						枚數代金 百分之九
						稅額合計
						備者

百四十八

	何々

右之通候也

年 月 日

何郡區長

姓名 印

第何號

明治何年度

明治何年(前)後半年分(新)規(自何月至何月)(第何期)

第十號樣式

內國稅訂正増減表

何郡區役所

何稅

科目	
摘要	
員數	
増	稅
減	額
備	
者	増又
ハ	減
差引稅額	

廿一年

明治十四年當府乙第三十七號達郡區長特任條件中へ左ノ
一項ヲ追加ス

第百二十二條 山林火入出願之節實地檢査ノ事

右相違ス

甲第貳拾七號 四月十八日 郡區町村

明治二十年 月 日 甲第百二十一號ヲ以テ遊藝稼人失跡ニ付

鑑札引揚ケ税金追徴方相違置候處浦野秀造義ハ今般後期

納稅濟之旨届出候條該達中同人ニ係ル部分ハ取消ス

右相違ス

甲第貳拾八號 四月廿日 郡區町村

客年三月甲第三十五號達第一項左ノ通改定ス
學齡兒童ノ父母後見人等ニシテ地價百圓以上ヲ有スル

モノハ其兒童ヲ小學簡易科ニ就カシムルヲ得ス尤モ其
管理者ニ於テ特別ノ事實アリト認ムルモノハ此限リニ
アラス

但授業料ニ等差ヲ設クルルハ地價四拾圓以上ヲ有ス
ルモノモ本項ニ據ル

右相違ス

甲第貳拾九號 四月廿一日 郡區 畧

甲第三拾號 四月廿八日 郡區町村

地租改正ノ際調製セシ町村地圖ハ各町村ノ便宜ニ任セ技
術不慣熟ナル者ノ手ニ成リシモノナルカ故ニ概子一筆ノ
廣狹形狀等實地ニ適合セズ或ハ脱漏重複又ハ位置轉倒ス
ル等不完備ヲ免カレザルモノ多キニ居ル加之地租改正已

廿一年

後十餘年間頻繁地目ノ異動アルモ地圖ハ改正ヲ加ヘザル
 カ爲メニ目今ニ至リテハ頗ル錯雜ヲ極メ實地ト齟齬スル
 モノ多ク故ニ地押取調ニ際シ或ハ新圖ヲ製シ又ハ異動ノ
 タ所ハ別圖ヲ製シ本圖ニ添付セシモ到底完全ナル地圖ノ
 用ヲ爲ス能ハス一体地圖ハ各町村ノ實況ヲ詳カナラシム
 ルモノニテ地租ノ調査ハ勿論土地百般ノ徵証ニ欠クベカ
 ラザルモノニ付今後地圖ヲ更正スルモノハ別冊準例ニ憑
 據シ調製セシムヘシ
 但從來ノ地圖別冊準例ノ旨趣ニ齟齬セサルモノハ更ニ
 調製スルヲ要セズ
 右相違ス

町村地圖調製式及更正手續

- 第一項 地圖ヲ調製スルニハ別紙町村製圖略法ニ據ルモ
 ノトス
 但シ從來ノ分間法等ニ據ルモ便宜ナルヘシ
- 第二項 地圖ハ村圖字圖ノ二種ヲ製スルモノトス村圖ニ
 ハ(イ)號離形ノ如ク每字ノ地形ヲ畫キ字圖ニハ(ロ)號離形
 ノ如ク每筆ノ地圖ヲ畫クモノトス
- 第三項 市街地ハ全市街ヲ數區ニ區畫スルカ若クハ一町
 毎ニ(ハ)號離形ニ倣ヒ其地圖ヲ調製スルモノトス
- 第四項 地圖ハ(イ)ロハ)號離形ニ依リ其符號及書式ニ從ヒ
 調製スルモノトス
- 第五項 町村圖ハ五間ヲ以テ、曲尺一分即チ三千トシ字圖
 ハ一町ヲ以テ曲尺一分即チ六百トス

第六項 地圖ノ用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ裏打ヲ爲スモノトス
第七項 字圖ハ美濃紙ヲ用フ下雖モ大ナルモノハ二枚以上ヲ繼合セ又小ナルモノハ一枚中ニ二字以上ヲ書クモ妨ナシ

但シ僅ニ紙幅ニ餘レルモノハ紙片ヲ脹足シ折返置クモノトス

第八項 町村圖ハ一部字圖ハ正副各壹部ヲ府廳及戶長役場ニ備置クモノトス

第九項 地圖調製後土地ノ異動ニ係ルモノハ府廳及戶長役場ニ於テ其願屆書ニ就キ第八項ノ幅圖ニ其時々附紙ヲ以テ修正スルモノトス
但畦畔ヲ設クルモノ、如キハ副圖ニ其線路ヲ書シ廢

スルモノハ其虛線ヲ畫スヘシ

第十項 地圖調製後道路河川ノ位置變更スルカ又ハ鐵道ノ敷設等其他ノ事故ニ由リ町村ノ大体ニ變易ヲ來シ其儘差置キ難キモノハ再製スルモノトス

第十一項 地圖ハ年々異動地ヲ修正セシ副圖ニ就キ正圖及副圖共十ヶ年毎ニ更ニ調製シ年月ヲ記載シ圖者之ニ記名捺印スルモノトス

但本圖明瞭ニシテ其儘使用シ得ラルヘキモノハ新調スルノ限ニアラス

第十二項 棚田ノ如キ一筆内細小ノ區畫アリテ一々畦畔ヲ記入シ難キモノハ枚數ヲ掲記シ別紙ニ記載添付スルモ妨ケナシ

町村製圖略法

第一項 圖ヲ製スルニハ第一圖ニ示ス見透器原名アリ在來ノ板分見ノ器械ヲ用ヒテ量地スルヲ可トス此見透器ハ使ニ類スルモノ用簡易ニシテ地形ヲ直チニ製圖板上ニ縮寫スルヲ得ルモノナリ

第二項 見透器ハ左ノ附屬品ヲ具備スルヲ要ス

羅針盤 製圖板 三脚臺

示心器 同上ノ點ヲ地上ノ測點ニ据ユルノ器械ナリ 垂球

第三項 字圖ハ六百分ノ一即チ壹間六尺即チハ曲尺ノ一分壹尺ハ曲尺ノ一厘六毛六糸餘ニ相當スルヲ以テ實地ノ摸樣ニヨリテハ前項ニ示ス示心器ヲ用ヒサルモ大差ヲ生スルノ憂ヒナシ故ニ從前ノ板分見法ヲ用ユルモ亦妨ナシ

第四項 製圖ニ着手セント欲スル作ハ先ツ左ノ諸品ヲ用ヒテ量地ス可シ

見透器附屬品共

間 繩 苧繩竹繩或ハ株柁繩ノ類ニテ成ルヘク伸縮セサル品ヲ用フヘシ測繩又ハ卷尺(原名テーブ)ヲ用フルハ最モ良シトス即チ梵天ニシテ竹竿ノ真直ナルモノヲ用ヒ標旗ヲ付ス

測 標 ヘン尤モ紅白又ハ黑白ノ塗分ノ竿ヲ用フルヲ善トス

製圖紙 美濃紙ヲ用フヘシ但シ板上薄糊付又ハ紙留或ハ輪ゴム等ヲ以テ風散セサル様注意スヘシ

兩脚規 原名コ

三角規

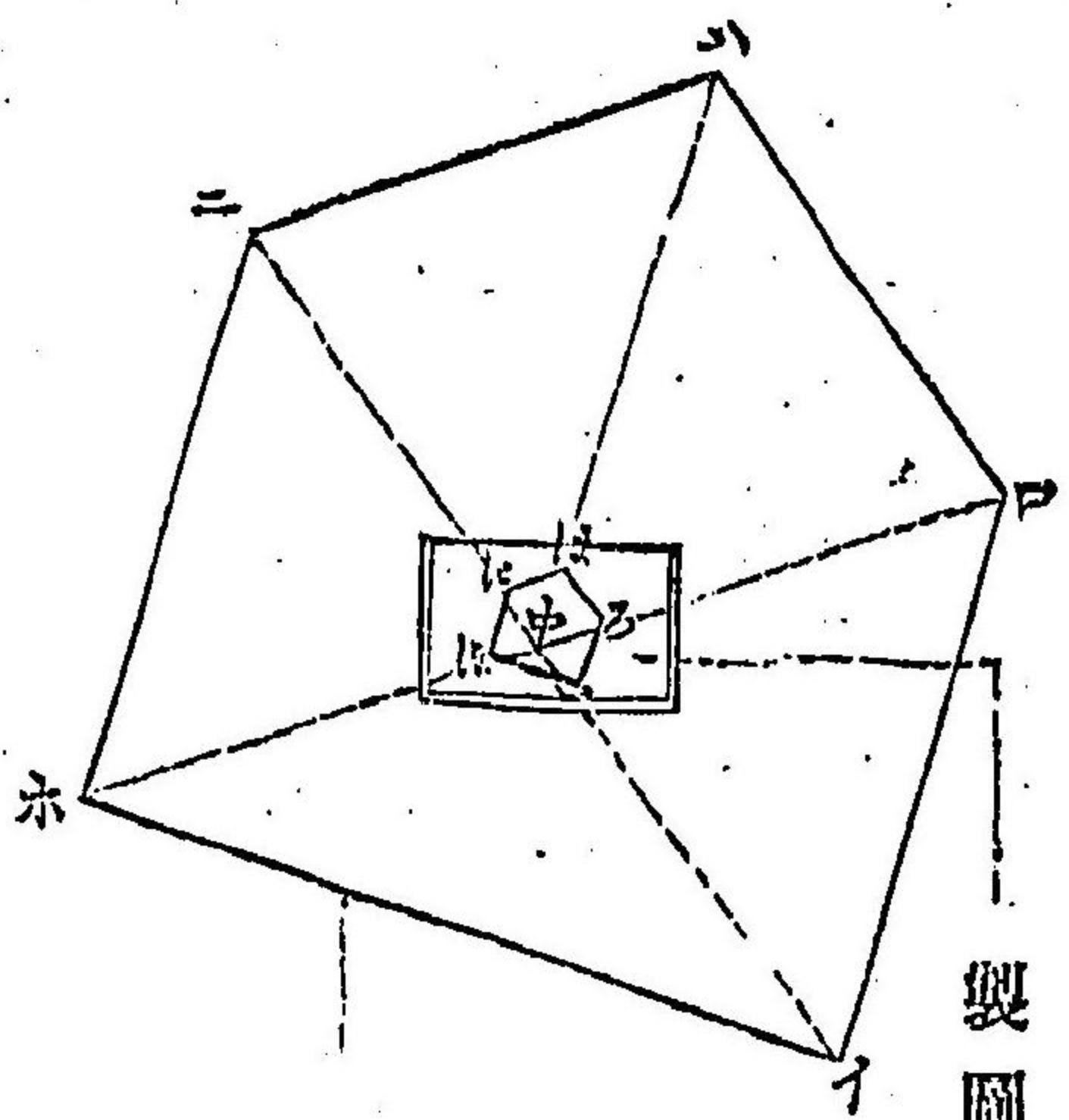
鉛筆

第五項 宅地田畑等地面平坦ニシテ樹林家屋等ノ見透シテ妨ルモノナキ一筆ノ土地ヲ板上ニ縮寫スルニハ第一

圖ノ如ク其土地ノ中央ト視認メタル位置ニ製圖板ヲ据
 (製圖板ニ製圖紙ヲ糊着シ)見透器ニ附着セル水準器ニ
 據リテ能ク水平ナラシメ製圖板ヲ回轉シテ羅針ノ方位
 ナ正シ此羅針盤ヲ定規トシ製圖紙端ニ南北線ヲ畫シ製
 圖板ニ示心器ヲ咬セ測點ノ中心ヲ定ム即チ基點ナリ後
 此點ニ見透器ノ零點ヲ宛テ置キ以テ(イ)ノ測標ヲ見透シ
 テ其距離ヲ丈量シ得タル處ノ間數ヲ虛線ニテ畫シ其線
 端ニ(ス)ノ符號ヲ印シ且ツ其傍ニ間數ヲ記載スヘシ次ニ
 又見透器ヲ轉シ(ロ)ノ測標ヘ向ケ基點(中)ヨリ(ロ)ノ測標ヲ
 見透シ其距離ヲ量リ虛線ヲ畫シ其線端ニ(ろ)ノ符號ヲ印
 シ間數ヲ傍記シ且(イロ)則チ紙上ノ(いろ)ノ間ニ實線ヲ畫
 スヘシ

而シテ順次前ノ如ク(ロハ)(ハニ)(ニホ)(ホイ)等ニ實線ヲ畫ス
 レハ自カラ其土地ノ實形ヲ板上ニ顯ハスヲ得ヘシ故ニ
 (イ)ヨリ(ロ)(ロ)ヨリ(ハ)(イ)ヨリ(ハ)等ノ距離ヲ知ラント欲セ
 ハ先ツ曲尺ヲ以テ(イ)ヨリ(ろ)(ろ)ヨリ(は)(い)ヨリ(は)等ノ距
 離ヲ測リ以テ其間數ヲ得ルナリ

製圖板面

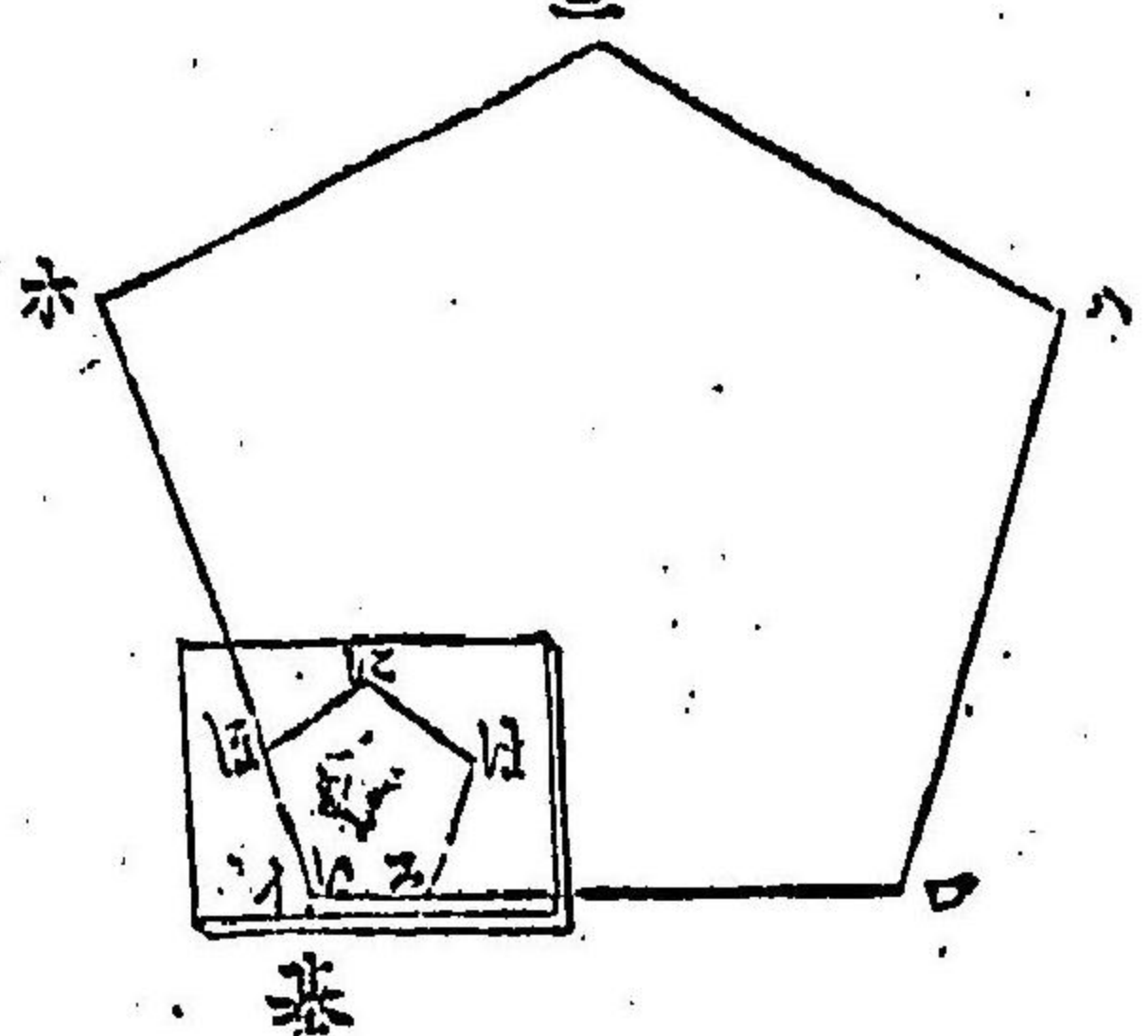


第一圖

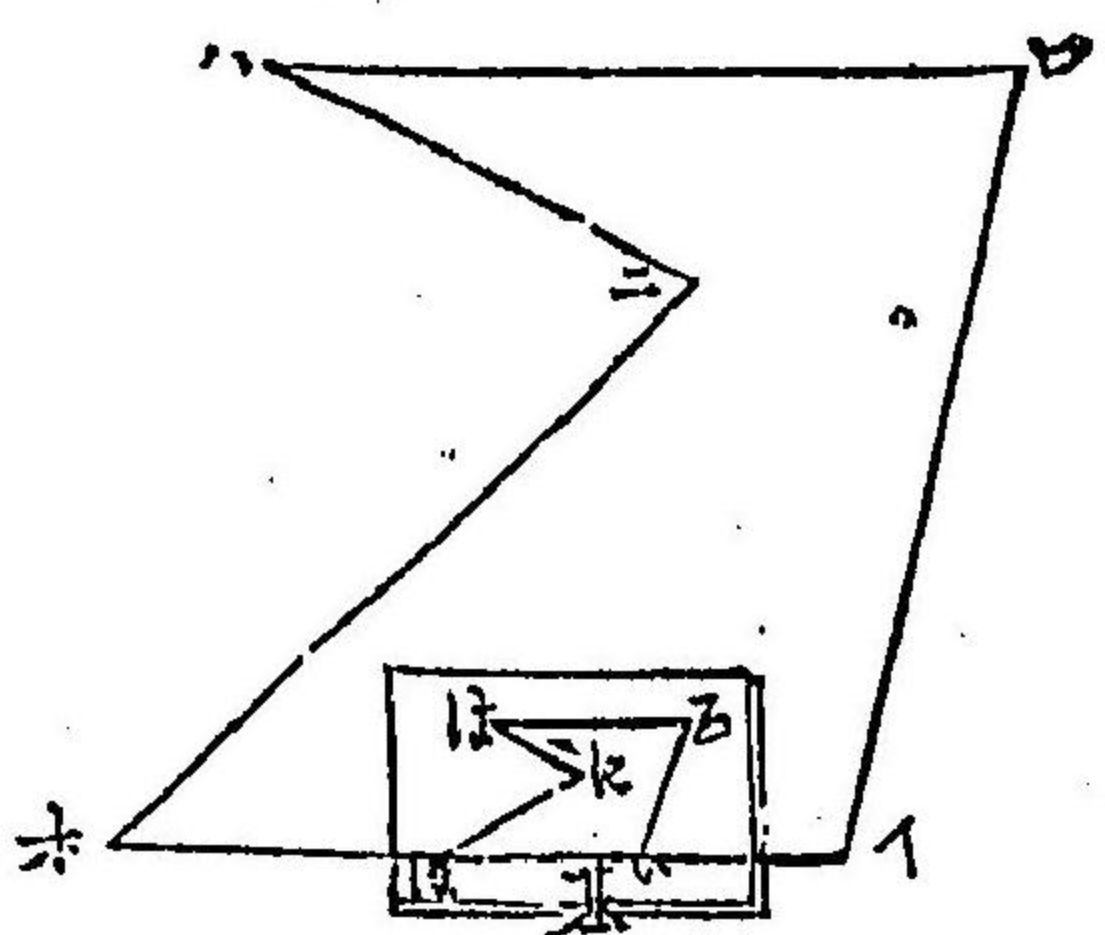
土地ノ境界

第六項 測地ノ模様ニヨリ中央基點ト爲サ、ルルハ第二
 圖ノ如ク測地ノ一端假令ハ(イ)ニ基點ヲ定ムルヲ便トス
 其施業方ハ總テ前項ノ法ニ據リ(イ)(ロ)(イハ)等ノ距離ヲ丈
 量シテ(イ)(イハ)ノ如ク紙上ニ縮寫スヘシ若シ又第三圖
 ノ如キ地形ニシテ基點(イ)ヨリ(ハ)ノ測標ヲ遮斷スルモノ
 アリテ見透スヲ能ハサルルハ(イ)(ロ)(イニ)(イホ)ハ前項ノ
 法ニヨリ先ツ之ヲ縮寫シ其他(ロハ)及ヒ(ハニ)ノ距離ヲ丈
 量シテ得タル間數ヲ兩脚規ヲ以テ紙上ノ(ろ)及ヒ(に)ノ點
 ナ圓心トシテ弧線ヲ畫スルルハ其切合ハ則チ求ムル所
 ノ(は)ノ點ヲ顯スヘシ或ハ又(ロ)ノ點ニ測量器ヲ移シテ(ロ)
 ヨリ(ハ)ヲ見透シ其ノ距離ヲ丈量シテ(は)點ヲ求ムルモ亦
 可ナリ

第二圖



第三圖

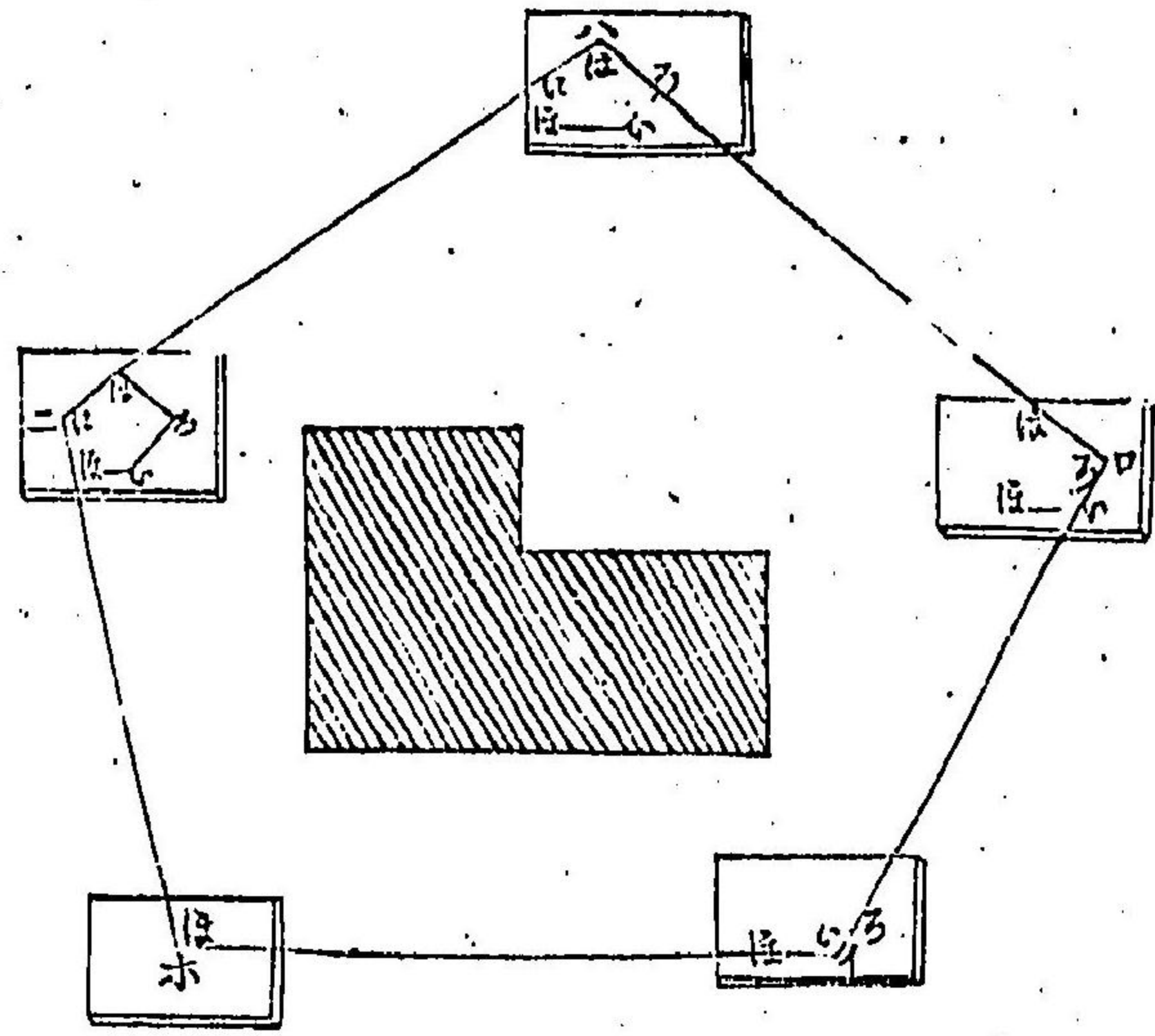


第七項

數筆ヲ連接シテ製圖セントスルル或ハ第四圖ノ
 如キ測内地ニ家屋又ハ森林丘阜其他ノ障礙物アリテ各
 測點ヲ見透シ能ハサルルハ先ツ(イ)ヲ基點トナシ前法ノ
 如ク(イ)(ホ)(イロ)ヲ見透シ其距離ヲ丈量シテ(イ)(は)(い)(ろ)ノ實
 線ヲ引キ夫ヨリ製圖板ヲ(ロ)ノ處ニ移シ先ツ見透器ヲ(い)

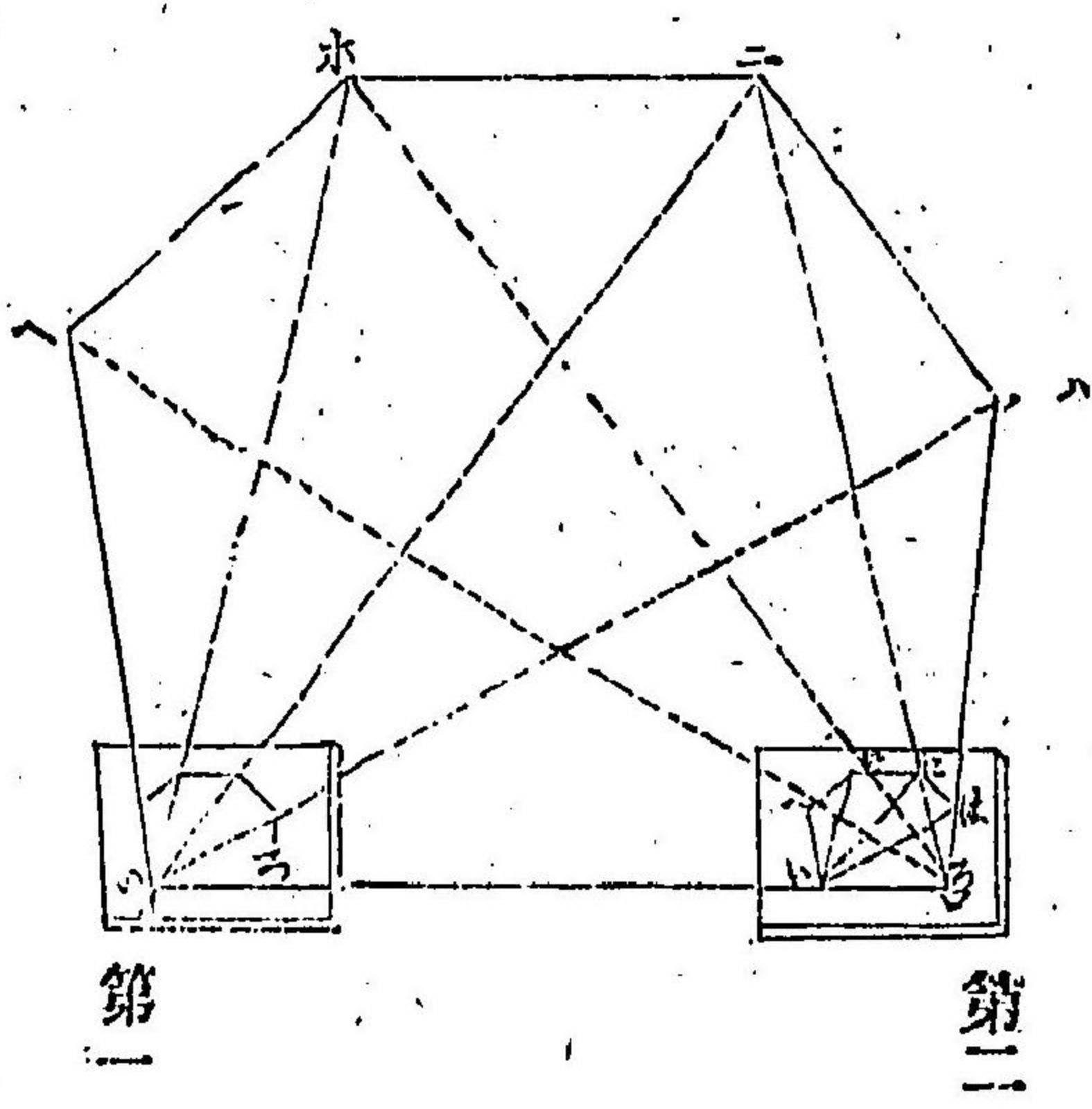
るノ線ニ正當セシメ(イ)ヲ見返シ以テ板ノ位置ヲ定メ而
 ノ後(ハ)ヲ見透シ且其距離ヲ丈量シテ紙上ニ(ろは)ノ實線
 ナ引クヘシ又測量器ヲ(ハ)ニ移シ見返スト等總テ(ロ)點ニ
 於ケルカ如ク等シキ順序ヲ以テ施業スヘシ最後ニ至テ
 (ニホ)ノ點接合スレハ全ク地形ヲ製圖紙ニ寫シテ誤謬ナ
 キモノト認ムヘシ但シ終リニ至テ接合セサルト間々之
 アルモノ故ニ若シ他點ノ見ユルアラハ見透シ置キ誤謬
 ナ正スノ用ニ供ス可シ

第四圖



第八項 池沼等一目シテ四至境界ヲ見透スヲ得ルト雖モ自由ニ丈量ヲナシ難キ場合ニ於テハ第五圖ニ示ス如ク池沼ノ邊ナル(イ)及ヒ(ロ)ノ二點ニ於テ施業スヘシ其法方ハ總テ前項ニ揭クルカ如クニシテ第一ニ(イ)ニ於テ(ロ)ハニ)等ナル各測點ヲ見透シ各其方向ニ虛線ヲ畫シ(イ)(ロ)間ノ距離ヲ丈量シテ其得タル間數ニ依テ紙上ニ(ろ)ノ點ヲ定メ測量器ヲ(ロ)ニ移ス可シ第二ニ(ロ)ニ於テ前ノ如ク各測點ヲ見透スルハ(は)に)等ニ於テ虛線ノ交叉スル處ノモノハ即チ(ハ)ニ)等ノ各測點トス故ニ(は)に)等ニ實線ヲ畫シ連續スルルハ則チ現地地形ヲ得ルナリ故ニ若シ周圍其他ノ間數ヲ求メント欲セハ前法ノ如ク曲尺ニテ量ルルハ周圍ノ間數ヲ得ヘシ

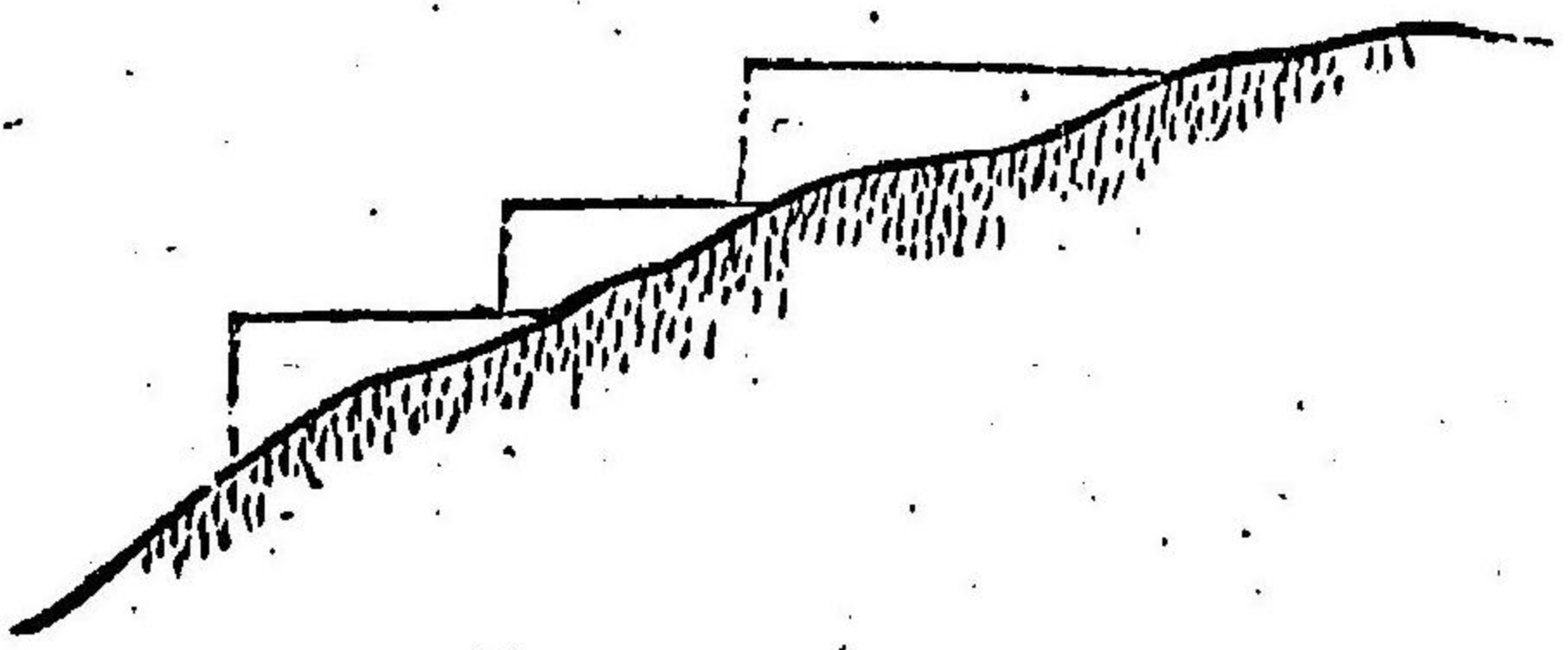
第五圖



第九項 距離ヲ丈量スルハ勉メテ水平ニ繩ヲ引ク可シ然ラサレハ自然差ヲ生スルモノナリ且第六圖ノ如キ斜面

地ニ於テハ其繩ノ一端ヨリ垂球ヲ地上ニ垂レテ順次丈
量スヘシ然ルルルハ真ノ水平距離ヲ量リ得ルナリ

第六圖

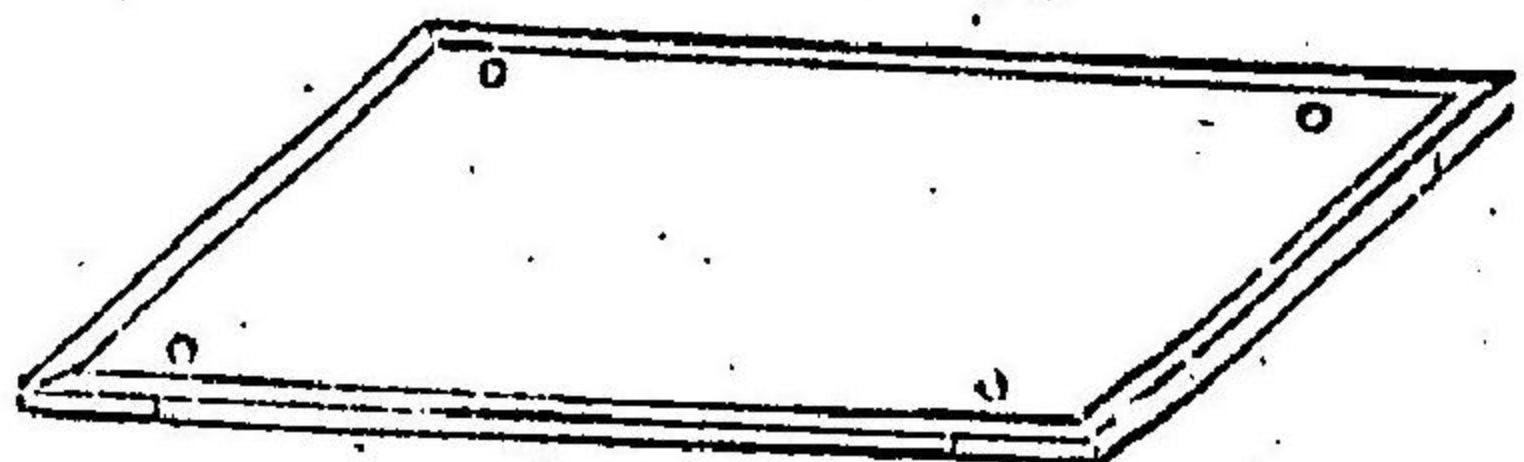


第十項 市街若クハ建橋ノ町村圖ヲ製スルニハ三千分ノ
 一ニ縮ムルノ式ナルニヨリ最初地形ヲ縮寫スルニ際シ
 曲尺ノ一分ヲ以テ現地ノ五間ノ割合トナセハ三千分ノ
 一ナル圖ヲ得ヘシ然レモ道路溝渠等ノ屈曲多キ場所ヲ
 精密ニ圖ゼントスルニハ一間ヲ曲尺ノ二厘トナス故其
 割合小ニシテ其實ヲ失フノ恐レアレハ寧ロ六百分ノ一
 ニ之ヲ製シ而シテ五分ノ一ニ縮圖スル方却テ誤リ鮮ナ
 カルヘシ但シ縮圖法ハ基盤目ノ罫紙ヲ製シテ曲尺又ハ
 比例兩脚規ニ據リ縮寫スルカ或ハ縮圖機械ヲ用ユルモ
 便宜タルヘシ然レモ不善良ナル機械ハ却テ誤謬ヲ生スコ
 ノ緩カニ曲尺ノ二厘ハ壹間ニ當ルヲ以テナリ

第十一項 畦畔ヲ測ルトキ其幅等シキトキハ製圖上ニ於

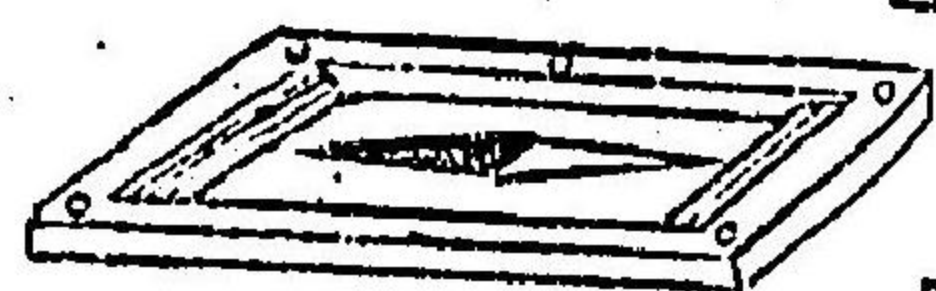
廿二年

第七圖
製圖板



六分ノ一

三分ノ一

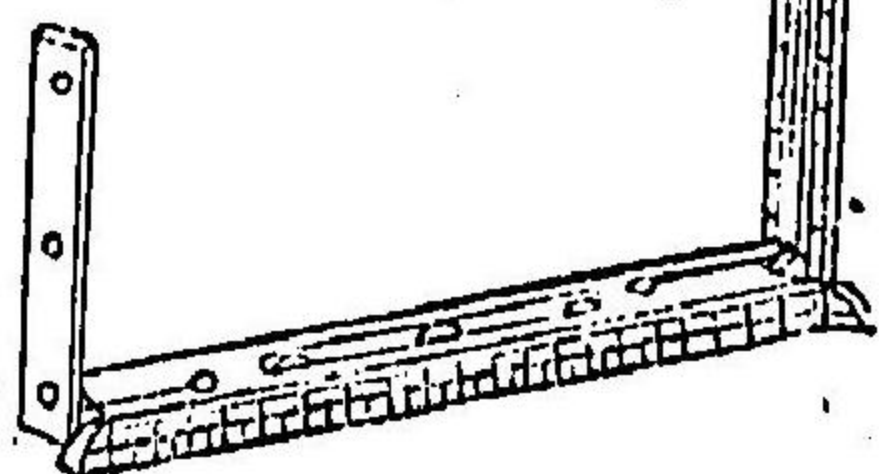


三分ノ一

透視器

五分ノ一

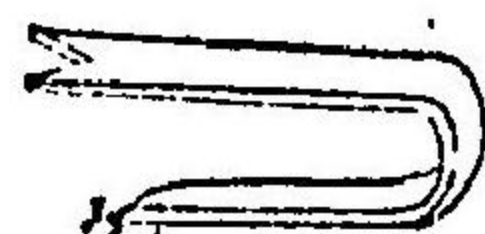
アリゲート



三脚臺
十分ノ一



示心規一名U字定規



垂球



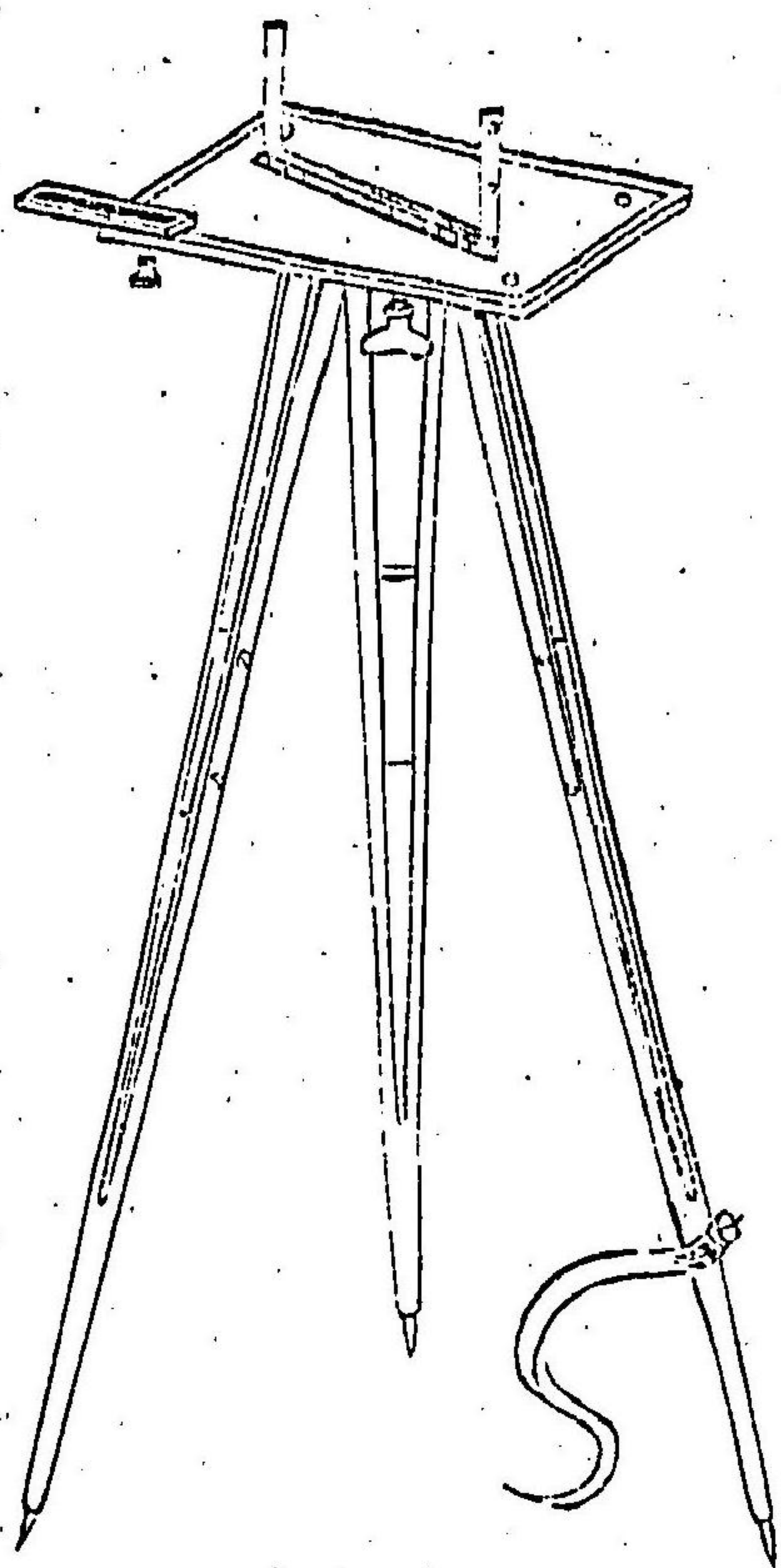
百七十五

百七十四

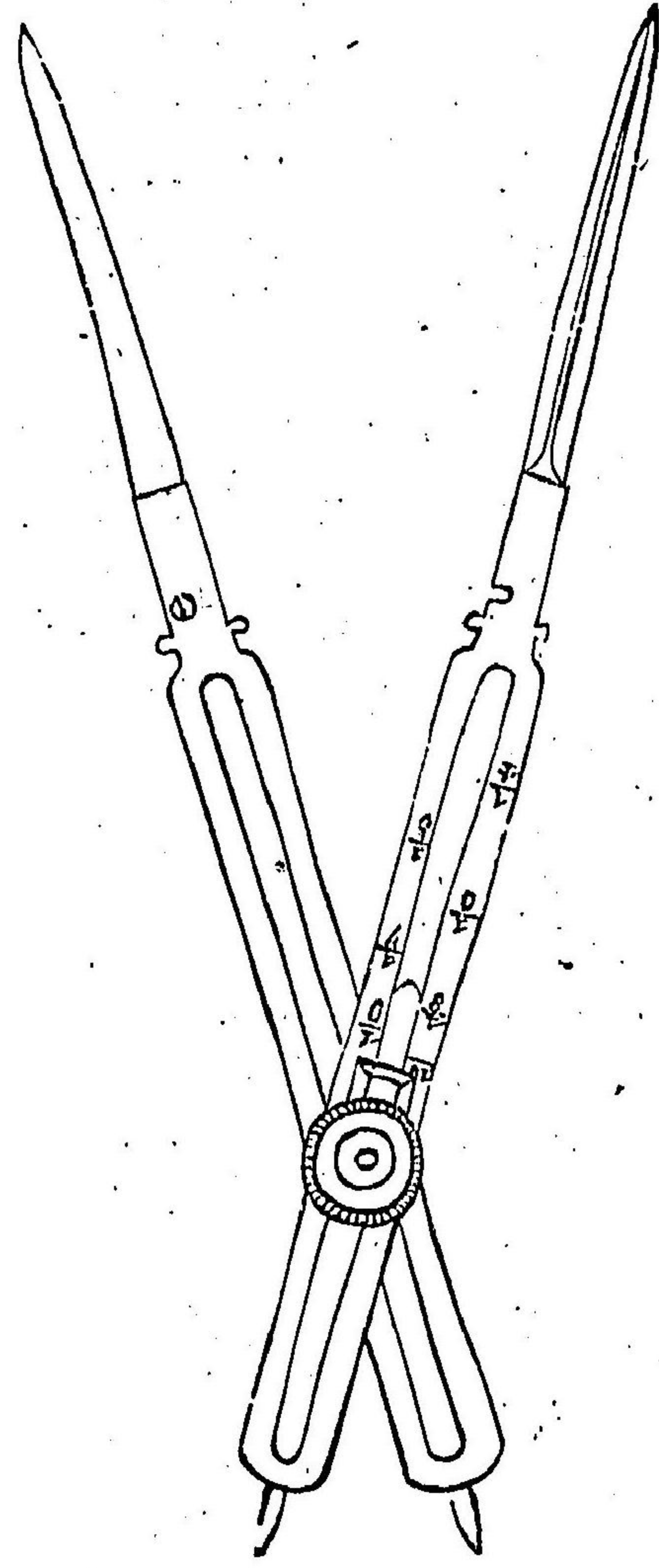
テ順次平行シテ適宜ニ線ヲ畫シテ畦畔ヲ圖スヘシ其等
シカラサルモノハ箇所毎ニ丈量シテ其廣狹ヲ示スヘシ
第十二項 羅針盤ヲ使用スルルハ鐵器ヲ避クヘシ

第七圖ノ一

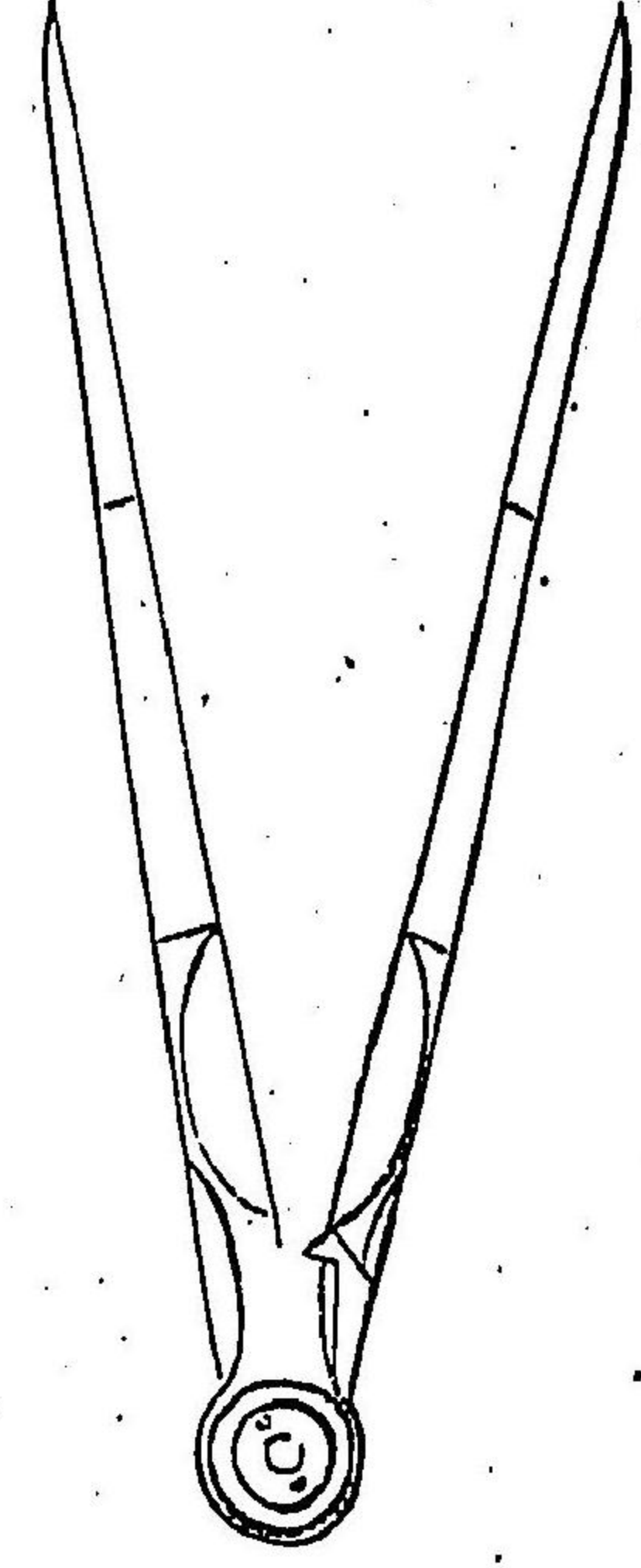
十分ノ一



第三圖



比例兩脚規



兩脚規

寶田村

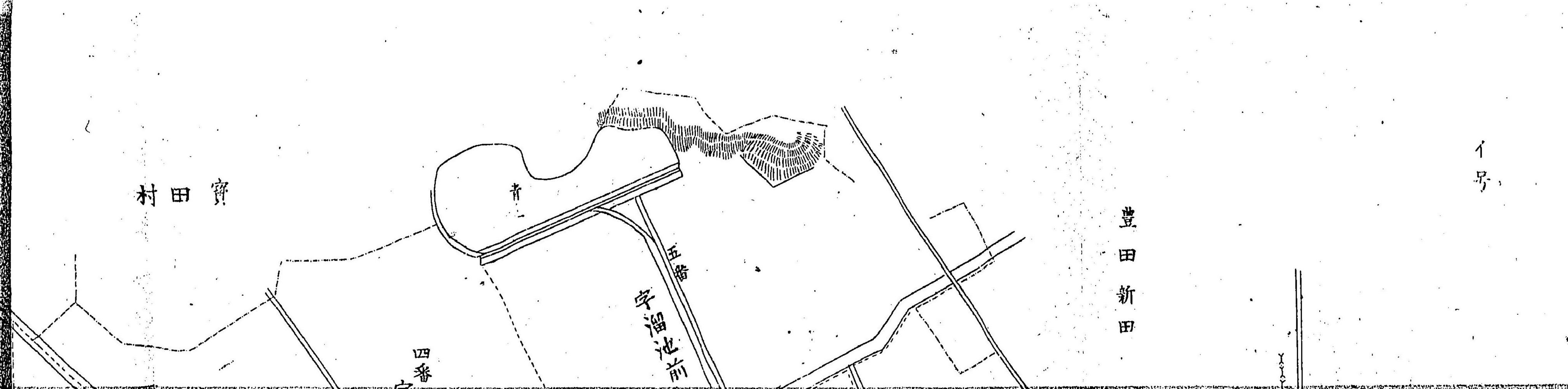
青

五番
字油池前

四番

新田豐

イ号



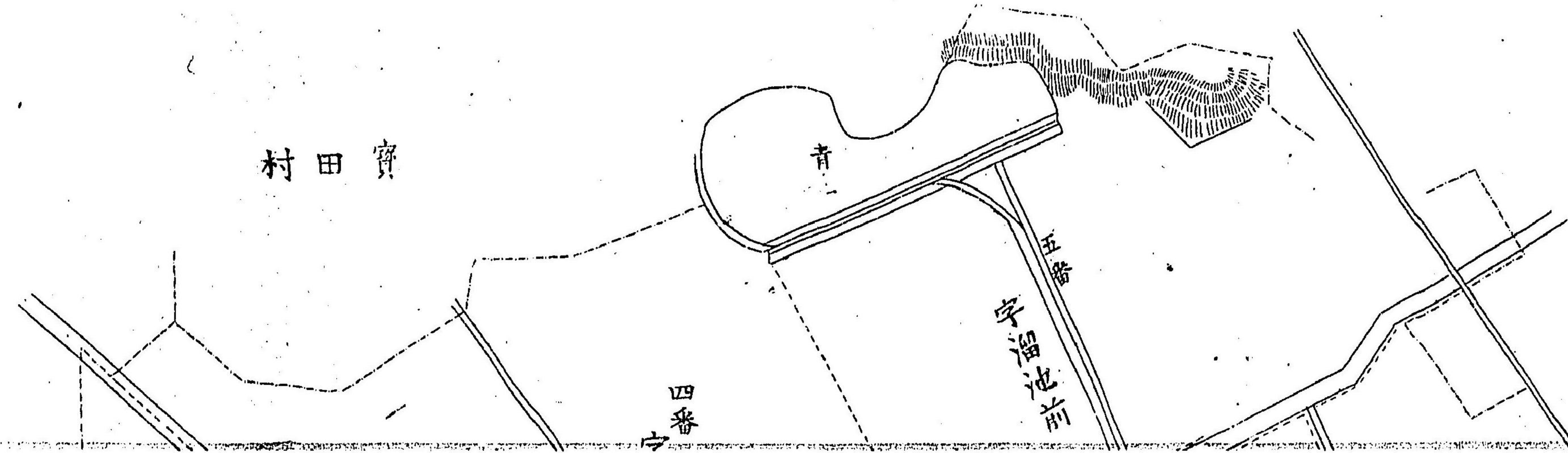
村田寶

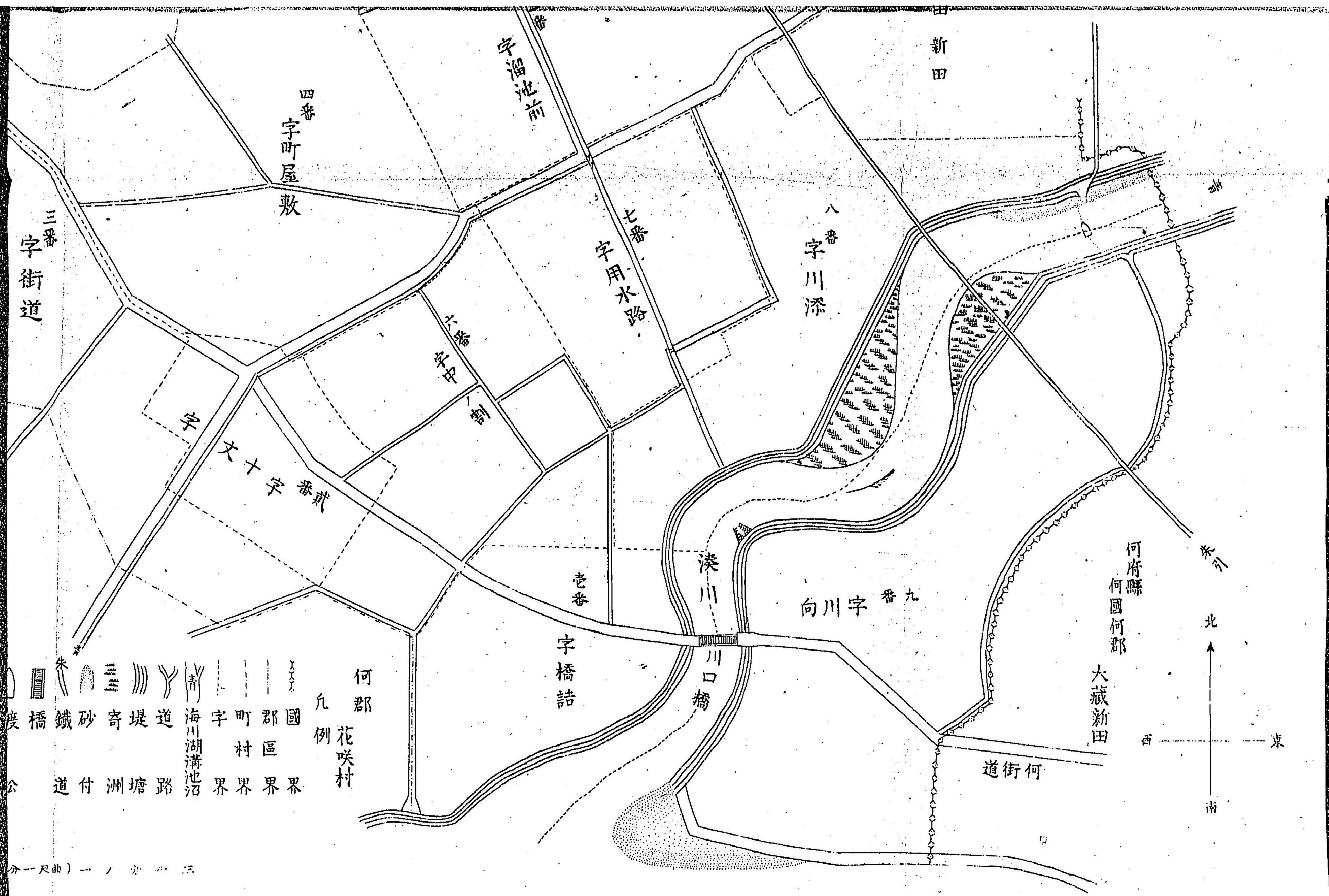
青

五番
字溜池前

四番

豊田新田



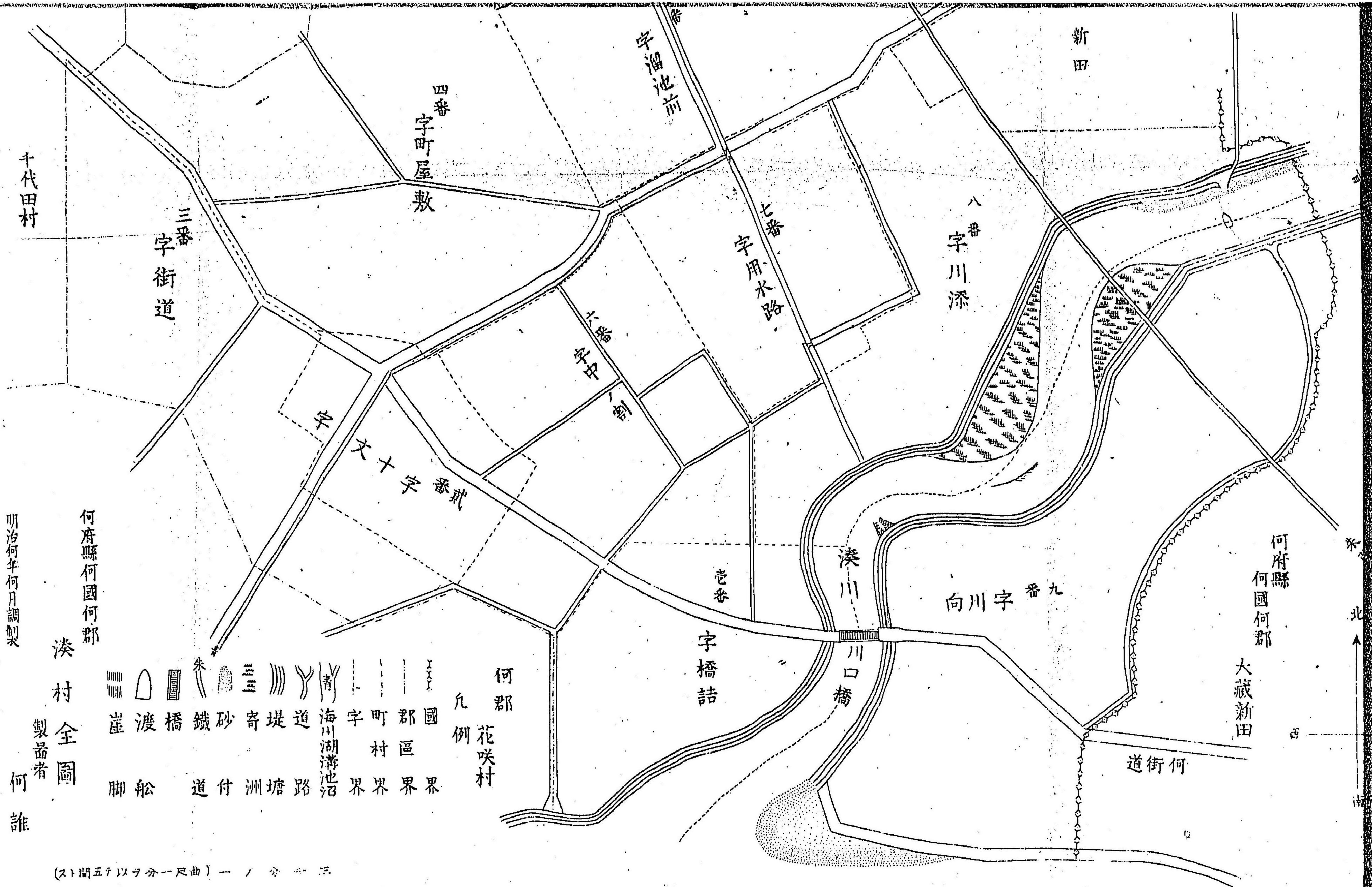


何郡 花咲村
 凡例
 國界 郡區界 町界 字界
 海川湖溝池沼
 道 堤 寄 砂 鐵 橋
 路 塘 洲 付 道 公

分一尺曲) 一ノ

何府縣
 何國何郡
 大藏新田

北
 南
 東
 西



明治何年何月調製

湊村全圖

製圖者 何誰

何府縣何國何郡

- 國界
- 郡界
- 町界
- 字界
- 海湖溝池沼
- 道
- 堤
- 寄洲
- 砂付
- 鐵道
- 橋
- 渡船
- 崖
- 朱脚

何郡 花咲村 凡例

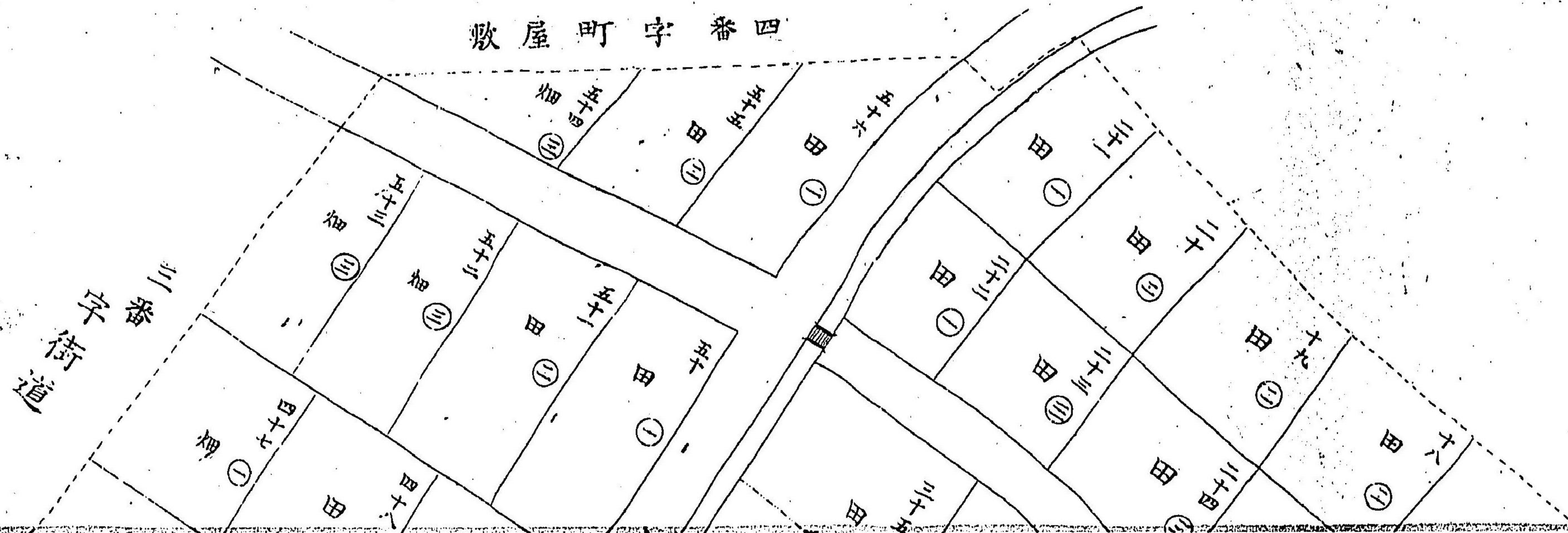
(スト間五ヲ以テ分一尺曲) 一ノ分

口号

湊村ノ内

貳番字十文字ノ

(曲尺毫分ヲ以テ它開トス)



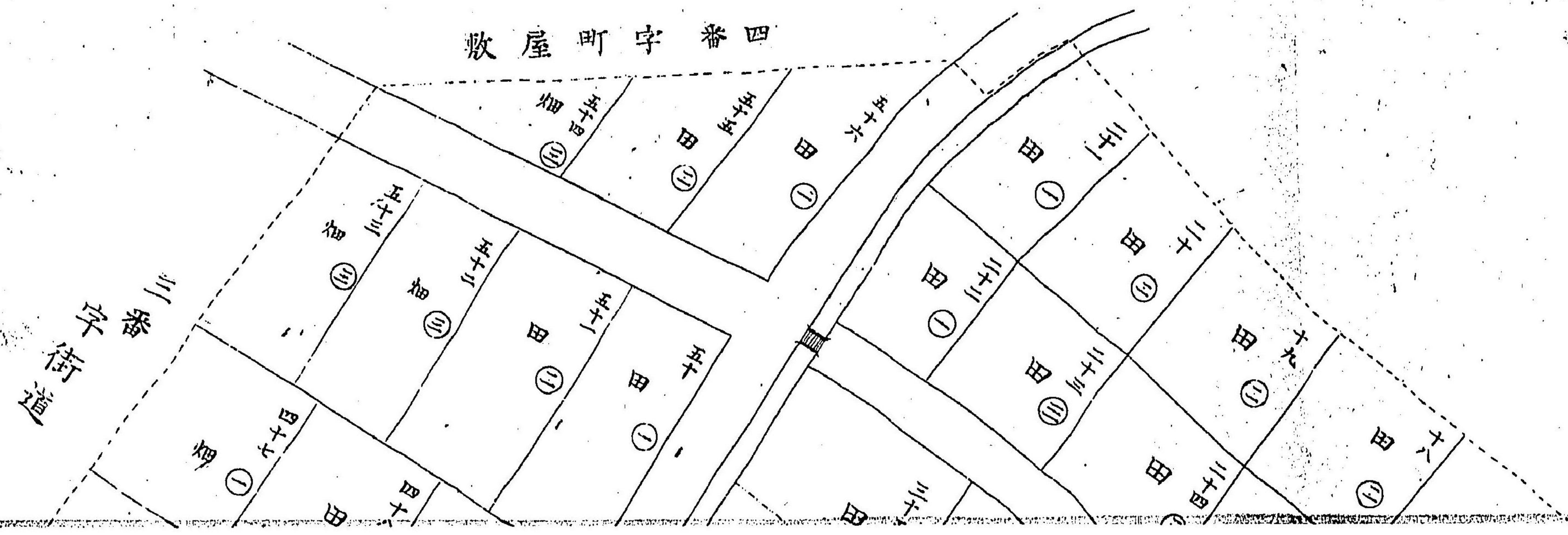
凡例

数字黑番号
全朱地位等級

湊村ノ内

貳番字十文字ノ

(曲尺巻分ヲ以テ空間トス)



凡例

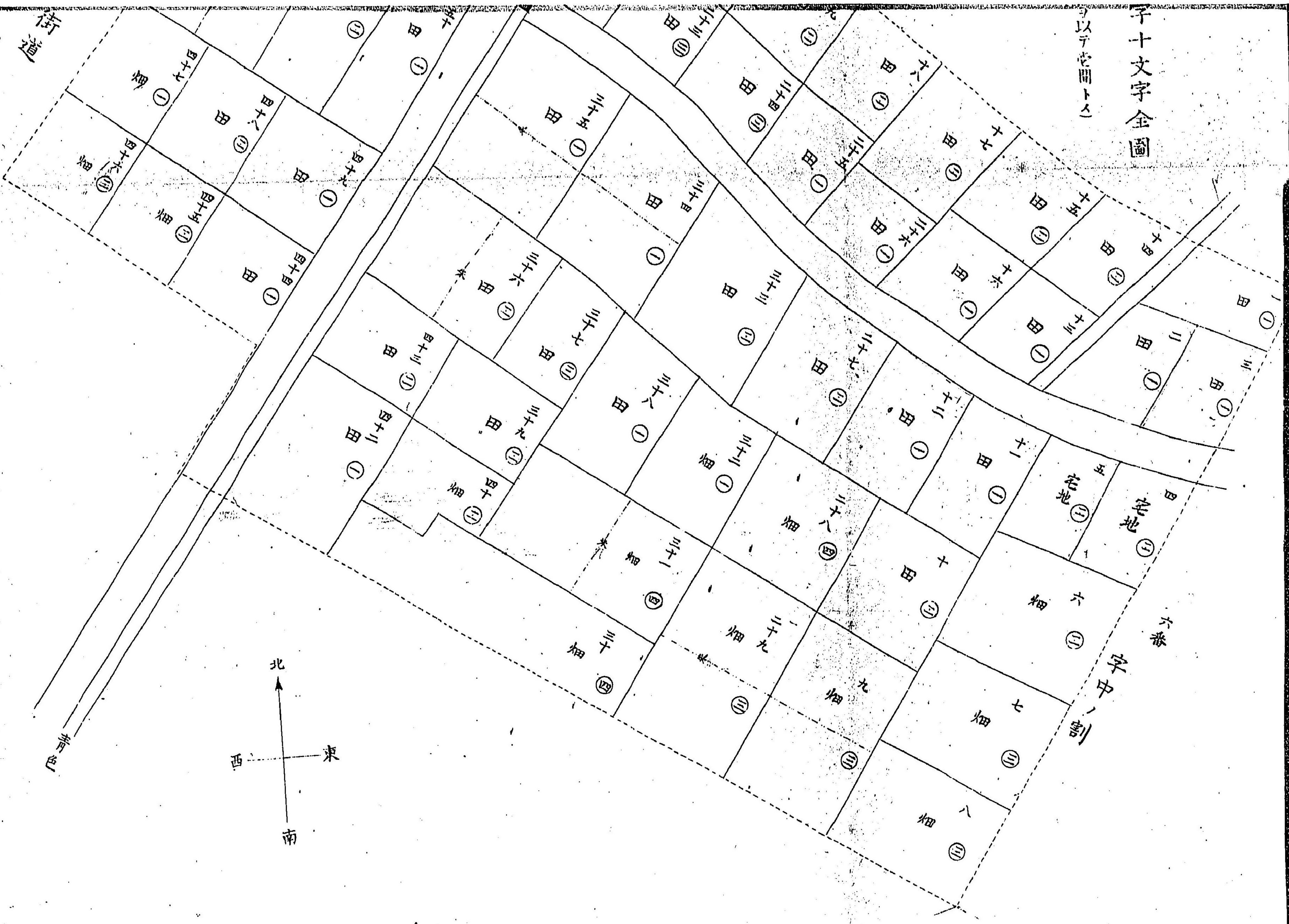
数字黒番号

全米地位等級

他村ノ飛地存在
白地ノ土地他村
官有地ノ存在

子十文字全圖

以字號開トス



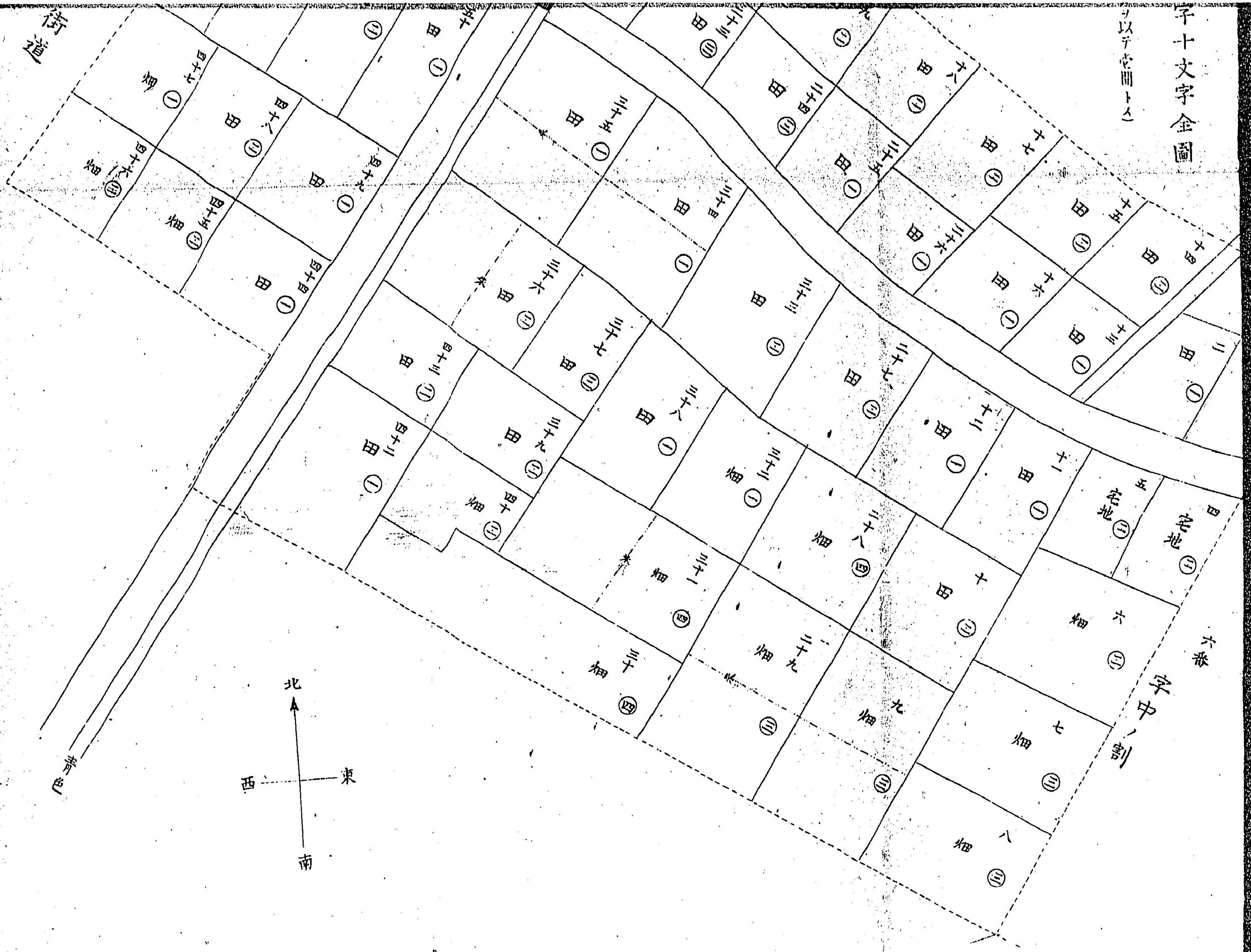
例

哇畔

数字黑番号
朱地位等級
文字代用○ノ里

千十文字全圖

以下に開トス



例
畦畔

数字黒番号
米地位等級 米子代用①、②

他村ノ飛地存在スルモノハ何村飛地ト記載シ置ツベシ
 自村ノ土地他村ニ飛地スルモノハ別ニ飛地圖ヲ製シ字繪畧ニ添付シ置ツベシ
 官有地ノ存在スルモノハ其地番號及何々官有地ト記載シ置ツベシ

製圖者

何 何
誰 誰

明治何年何月調製

八号

市街界	町界	番地	官地	民地	社地	寺地	共地	田	川
例									

三十分之一
即由尺以一分五換間此例尺

五寸 一寸 五分 一分 五分 一寸 五分 一寸 五分 一寸 五分

